
国際会議における サステナビリティ推進事業

業務実施報告書

公開用
3/6時点版

2025年3月21日

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5

本事業の目的と業務の概要

事業の目的と業務の位置づけ

本業務の目的

世界的なサステナビリティへの関心の高まりを受け、MICE分野における世界的潮流の調査を行う他、本事業での支援対象都市に対してサステナビリティに関するプログラムを提供することで、地域全体での取り組みを推進し、国際会議の誘致競争力を向上させる

(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成

- ア) 国際会議開催におけるサステナビリティの取組に関する世界的な潮流を調査
- ・ 開催地の取り組みや、各ステークホルダーの意識・取り組みを調査
- イ) その他、サステナビリティへの取組の重要性を我が国のMICE開催都市へ伝えるために必要な調査
- ・ 国内外の宣言・計画を調査
- ウ) 国際会議開催に関連するサステナビリティの指針を調査する
- ・ 「GSTC MICEスタンダード」の導入編、日本語版(原本の翻訳版)の作成
- エ) 発信用資料・ツールの作成
- ・ ア)～イ)をまとめた資料を作成

(2) 都市に対するサステナビリティ促進支援

- ア) 本年度の支援対象都市の選定
- ・ MICE誘致数等を軸に支援対象都市を選定
- イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振り返りも含む)
- ・ プログラムの提供に向け、支援対象都市、および昨年度の支援対象都市の強み・弱みを分析
- ウ) 伴走支援プログラムの構築
- ・ 支援対象都市の取り組みの現状を整理し、令和7～11年度のアクションプランを作成
 - ・ (1)の調査や昨年度事業で作成したCO₂排出量測定モデル等をもとに各都市での講義・ワークショップを検討
- エ) 伴走支援プログラムの提供
- ・ 支援対象都市内や都内でプログラムを提供

(3) セミナーの開催

- ・ (2)の支援対象都市以外を主に対象としたサステナビリティ促進を目的としたセミナーを開催
 - ー (2)エ)で実施した成果報告会と共に実施

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
(2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
(2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15

(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成、概要

概要

- ア) 国際会議開催におけるサステナビリティの取組に関する世界的な潮流を調査
- イ) その他、サステナビリティへの取組の重要性を我が国のMICE 開催都市へ伝えるために必要な調査
- ウ) 発信用資料・ツールの作成
- エ) 国際会議開催に関連するサステナビリティの指針を調査する

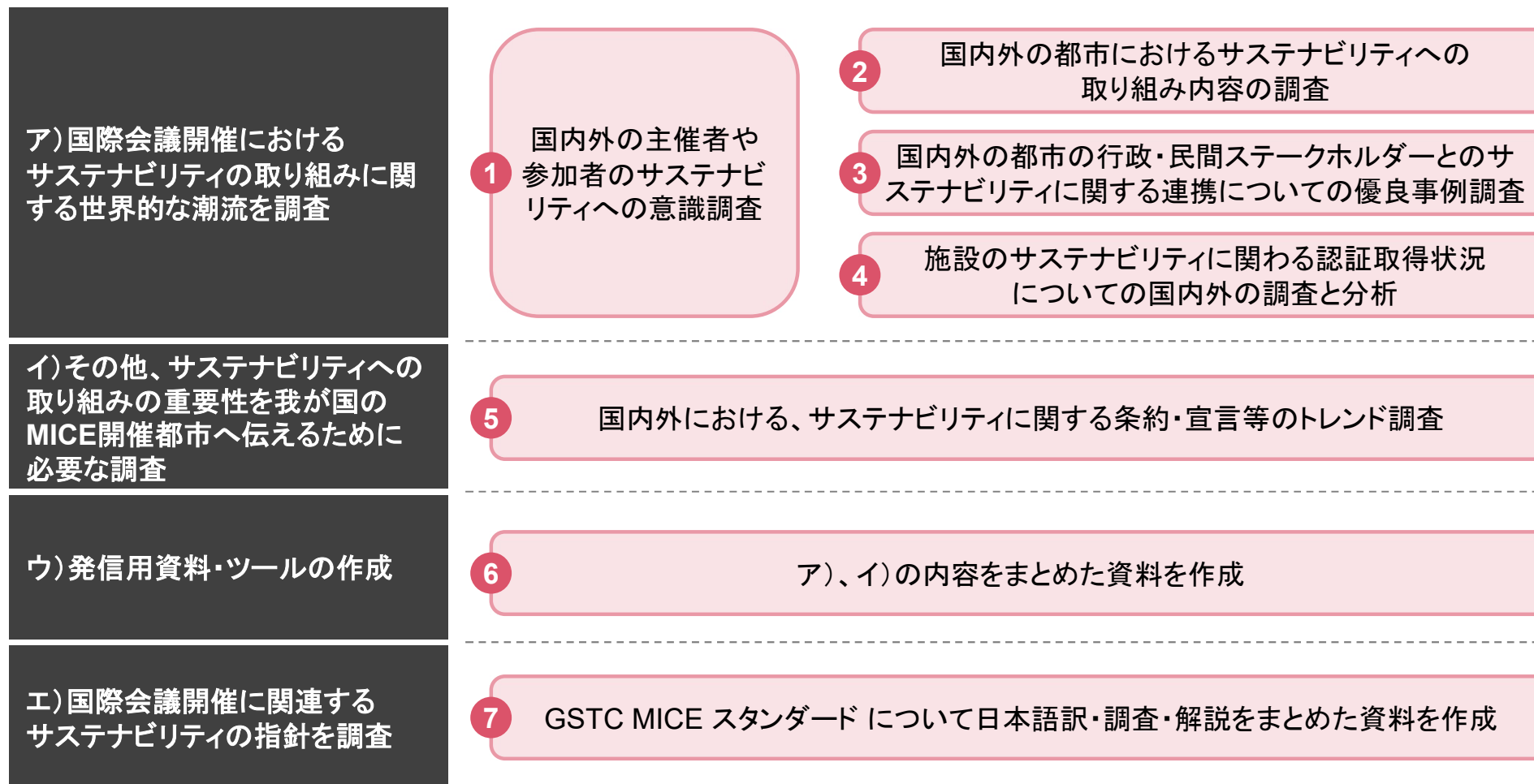
アプローチ

- ・ Web調査を中心に、アンケート、ヒアリング調査を実施し、世界的な潮流を把握する
- ・ ア)～イ)の内容をまとめた資料を作成する
- ・ 今年度公開された「GSTC MICE スタンドアード」を調査し、整理する

業務項目	実施概要	実施手法	成果物
ア)国際会議開催におけるサステナビリティの取組に関する世界的な潮流を調査	・ 国内外の主催者や参加者のサステナビリティへの意識調査 ・ 国内外の都市におけるサステナビリティへの取り組み内容の調査 ・ 国内外の都市の行政・民間ステークホルダーとのサステナビリティに関する連携についての優良事例調査 ・ 施設のサステナビリティに関わる認証取得状況についての国内外の調査と分析	・ Web調査 ・ アンケート調査 ・ ヒアリング調査	・ N/A
イ) その他、サステナビリティへの取組の重要性を我が国のMICE 開催都市へ伝えるために必要な調査	・ 国内外における、サステナビリティに関する条約・宣言等のトレンドを調査	・ Web調査	・ N/A
ウ) 発信用資料・ツールの作成	・ ア)～イ)の内容をまとめた資料を作成	・ N/A	・ 国内外のサステナビリティに関する意識・トレンド・取り組み内容をまとめた資料
エ) 国際会議開催に関連するサステナビリティの指針を調査する	・ GSTC MICE スタンドアードについて、日本語訳・調査・解説をまとめた資料を作成	・ Web調査 ・ ヒアリング調査	・ GSTC MICE スタンドアードをまとめた資料

サステナビリティの取組みにおける意識の向上・実行方法の把握・効果の理解に向け機運醸成ツールを作成

機運醸成ツール作成の目的と各業務の位置づけ



世界的な潮流を把握するため、主催者・参加者の意識や国内外の先進事例を調査した資料を作成した

「MICE分野におけるサステナビリティに関する潮流調査」作成の目的と資料の内容

目的

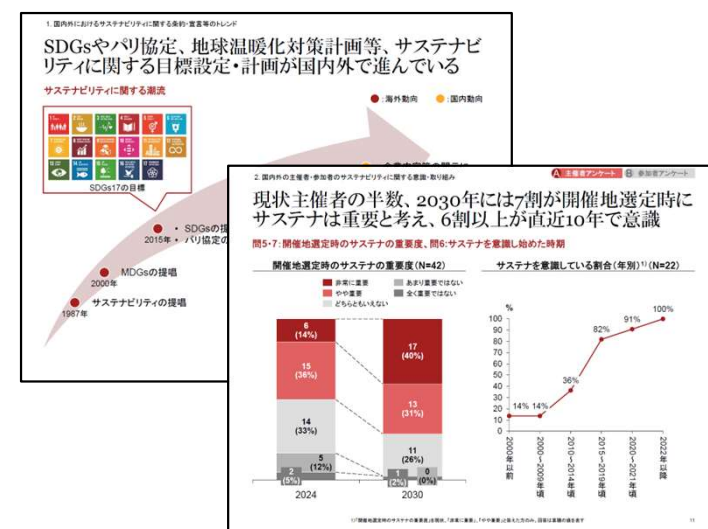
- ・ MICEにおけるサステナビリティの世界的な潮流(主催者・参加者の意識、各都市の取り組み等)を整理することで、取り組みを検討する際の参考としていただくことで、国内都市のサステナビリティを推進する

アジェンダ

1. 国内外におけるサステナビリティに関する条約・宣言等のトレンド
2. 国内外の主催者・参加者のサステナビリティに関する意識・取り組み
3. 国内外の都市におけるサステナビリティに関する取り組み(官民連携を含む)
4. 国内外の施設のサステナビリティに関する認証取得状況

資料イメージ

資料の内容



作成した資料は、別紙「MICE分野におけるサステナビリティに関する潮流調査」にて整理

また、取り組みの推進に向けた指針となる「GSTC MICE スタンダード」の導入編・日本語版も作成した

「GSTC MICE スタンダード」(導入編・日本語版)作成の目的とアジェンダ

目的

- 「GSTC MICE スタンダード」の導入編、および日本語版を作成することで、MICEのサステナビリティに関する世界的なスタンダードを、国内のMICE関係者に理解を促し、国内都市のサステナビリティを推進する

導入編

1. はじめに
 2. 「GSTC MICE スタンダード」とは
 3. MICE × サステナビリティの潮流
 4. 本スタンダードの活用方法
 5. 「GSTC MICE スタンダード」の読み方
- Appendix

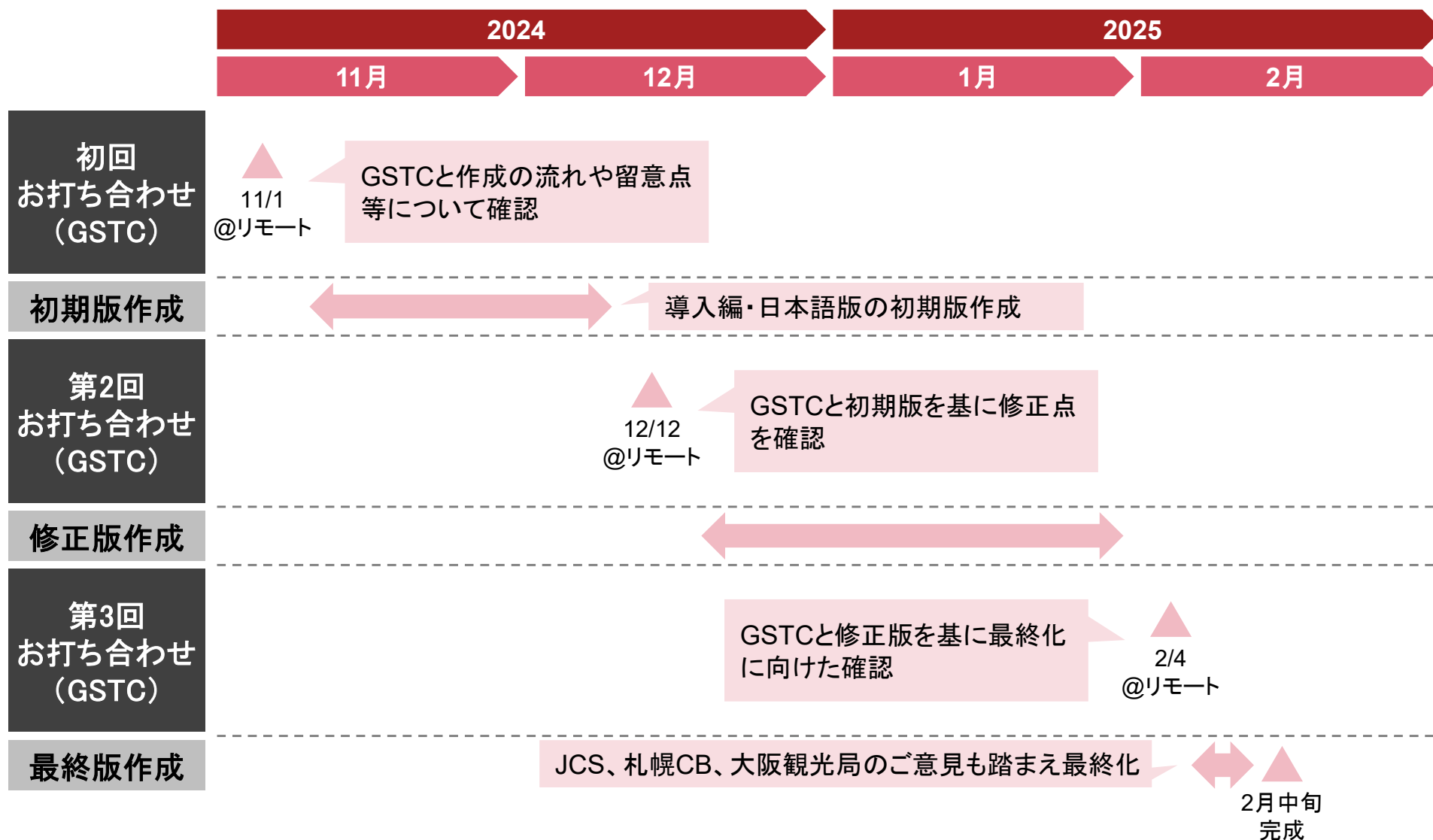
本編(原本の日本語版)

1. 前文
2. スタンダードの適用
3. スタンダードの改訂
4. パフォーマンス指標
5. MICEスタンダードで使用する用語の定義
6. GSTC MICE スタンダード
 - A) 効果的で持続可能なマネジメントの実証
 - B) 社会的・経済的利益の最大化と悪影響の最小化
 - C) 文化遺産への恩恵の最大化、悪影響を最小化
 - D) 環境メリットの最大化、環境負荷の最小化

アジェンダ

導入編・日本語版の作成にあたっては、GSTCと適宜擦り合わせを行い、有識者からのフィードバックも反映

「GSTC MICE スタンダード」資料作成の流れ



Web調査やGSTC、有識者へのヒアリングで得られた導入編・日本語版作成時の留意点を整理し、反映した

「GSTC MICE スタンダード」(導入編・日本語版)作成にあたっての留意点

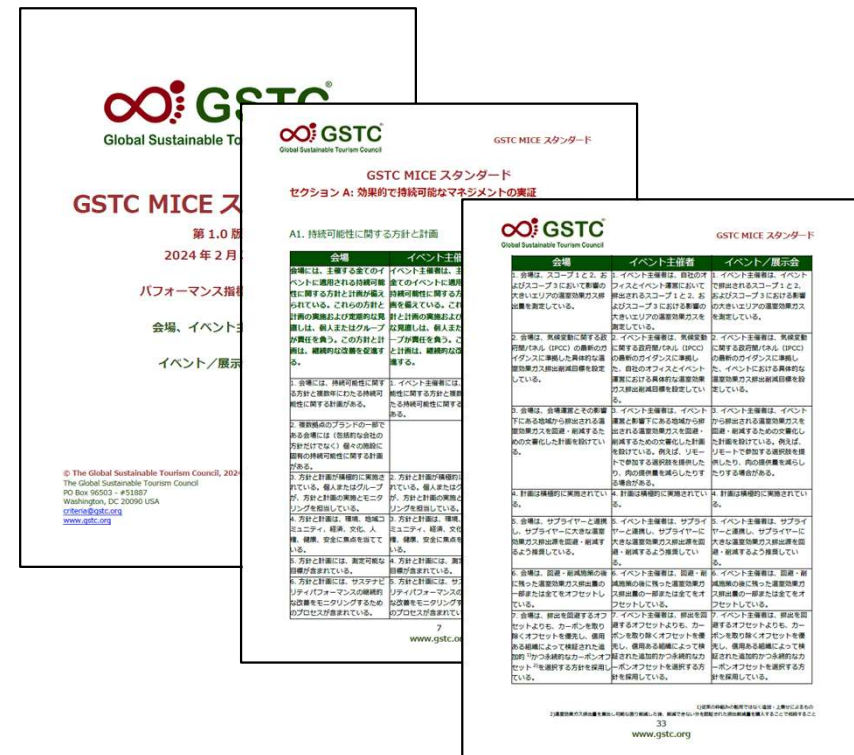
カテゴリ	留意点	具体的な留意事項
A 作成全般における留意点	①-1. 文言はどうすべきか	• これまではクライテリアと呼んでいたが、「GSTC MICE スタンダード」とすることになったため、資料にも反映する • 原本の単語と日本語訳は、GSTCが指定の変換表をもとに全ての資料で統一する(基準、標準、スタンダード等)
		• 原本に記載の「会場」、「イベント主催者」、「イベント・展示会」に加え、「自治体・CB」、「参加者」、「教育機関」等も例として明示する
B 導入編作成時の留意点	②-1. 対象読者は誰にすべきか	• 取り組みが進んでいない対象から、高レベルな認証・認定取得を目指す対象も含める
		• 導入編の冒頭には、GSTCやサステナビリティについて等の基礎的な情報の他、本事業での調査結果も掲載する
	②-2. 資料の構成・内容はどうか	• 導入編の後半には、活用方法や資料の読み方等、読者が日本語版を読む上でサポートとなる情報を掲載する
		• 原本に合わせ、縦型の資料として作成する • フォントはメイリオで全て統一する
C 日本語版作成時の留意点	③-1. 日本語版作成時の構成・内容はどうか	• 原則として構成・内容は原本に手を加えず、原本をそのまま日本語訳した資料とするが、分かりにくい表現については改める
		• 表のページでは、項目が分かりやすいよう全ページにわたって表のタイトルを掲載する
		• 理解が難しい単語については注釈を記載する(外来種、侵入種等)

導入編は本編の活用方法や読み方を整理し、本編も注釈等を加えることにより理解促進を図った

「GSTC MICE スタンダード」(導入編・日本語版)より一部抜粋

導入編

本編(原本の日本語版)



本スタンダードの活用方法や、原本の読み方を整理することで、原本の理解促進を図る資料とした

毎ページ表にタイトルを入れる、難解な単語に注釈を入れる等により、分かりやすい資料とした

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
 (2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)	
ウ) 伴走支援プログラムの構築	
エ) 伴走支援プログラムの提供	

(2) 都市に対するサステナビリティ促進支援、概要

概要

- ア) 本年度の支援対象都市の選定
- イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)
- ウ) 伴走支援プログラムの構築
- エ) 伴走支援プログラムの提供

アプローチ

- Web調査により、支援対象都市を選定する
- Web調査、各都市の市・CBへのヒアリング調査により都市の強み・弱みを整理する
- 支援対象都市に対し、都市別のプログラムを検討し、提供する

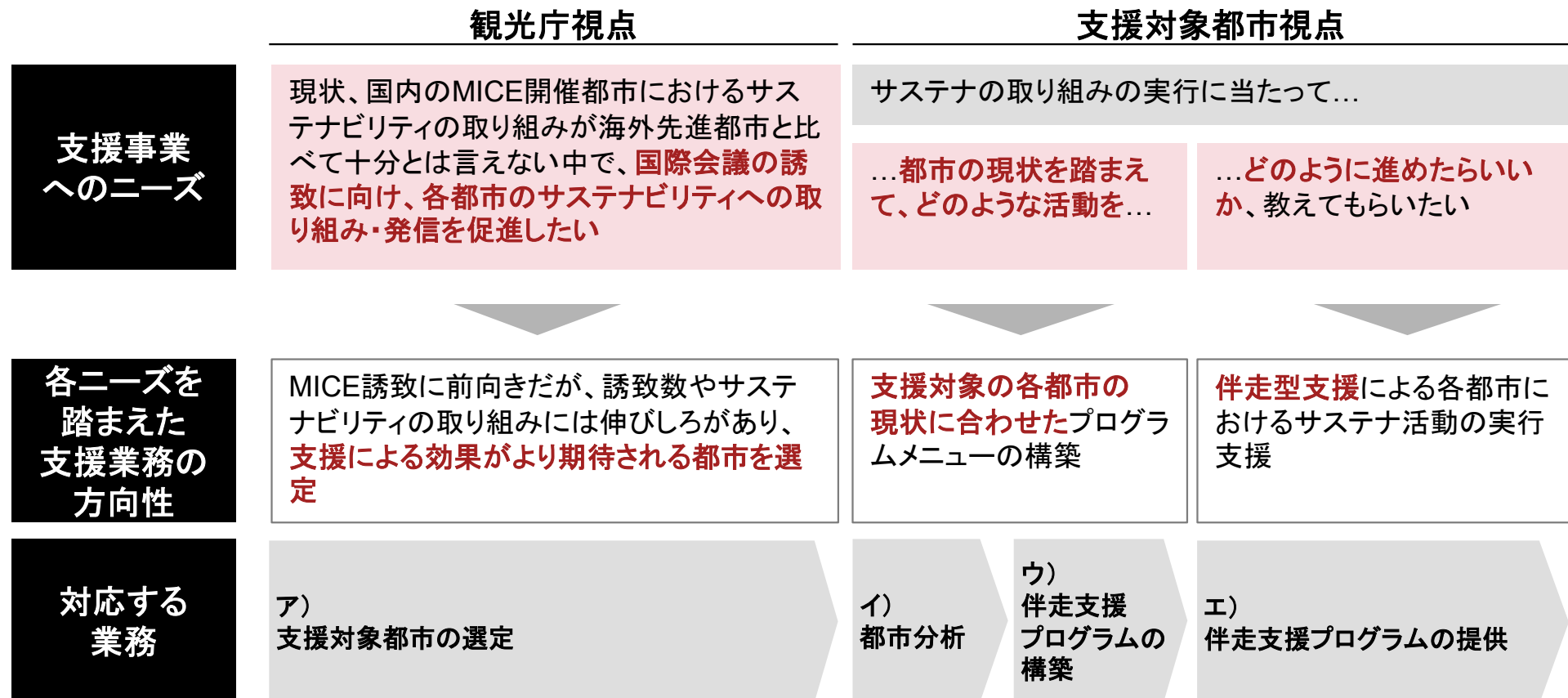
業務項目	実施概要	実施手法	成果物
ア) 本年度の支援対象都市の選定	- MICE誘致活動に前向きな都市の中から、伴走支援の効果が高いと想定される都市を3都市以上提案 - 最終的には採択後に貴庁と協議の上、支援対象都市を決定	- Web調査 - 貴庁担当者との協議	支援対象都市リスト
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)	支援対象都市の既存のサステナビリティへの取り組み状況を、Web調査やヒアリング調査によって対象都市の強み・弱みを整理し、今後の支援の方向性を検討	- Web調査 - 各都市の担当者にヒアリング調査	各支援対象都市の分析結果
ウ) 伴走支援プログラムの構築	- 都市分析を踏まえて、各都市の実態・課題に即した伴走支援プログラムを実施 (i) 伴走プログラムの目的・目指す成果 i. 「支援都市内で実施しているサステナビリティへの取り組みリスト」「主催者や利用者に対し提供できるサステナビリティな体験リスト」の作成 ii. MICEにおけるサステナビリティアクションプランの作成 (ii) 伴走プログラムの内容 i. ステークホルダーを巻き込んだ講義・ワークショップの実施 ii. 「国際会議の開催に係るCO₂排出量測定モデル」を活用したプログラムの実施 iii. (1)の調査結果を踏まえたプログラムの実施	- Web調査 - 各都市の担当者との協議 - 貴庁担当者との協議	都市別の伴走支援プログラム
エ) 伴走支援プログラムの提供	- 下記①~③を組み合わせで3回以上実施 ① 各都市にて実施 ② 集合型プログラム ③ リモートによる実施	N/A	支援結果のまとめ

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
(2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)	
ウ) 伴走支援プログラムの構築	
エ) 伴走支援プログラムの提供	

支援事業への観光庁・支援対象都市のニーズを踏まえた上で、支援効果が期待される各都市に、適切な伴走支援を実施した

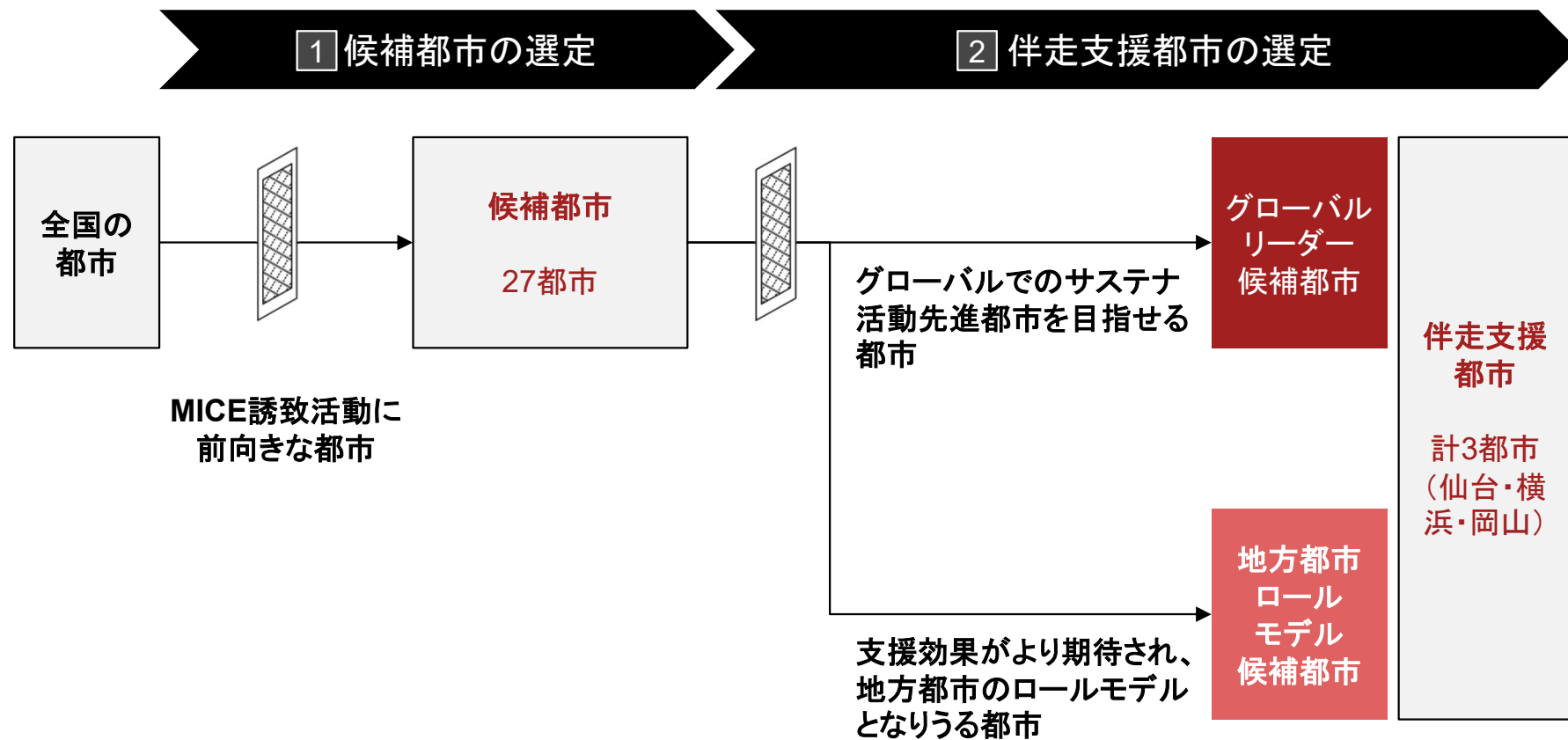
支援事業へのニーズ理解と支援業務の方向性



上記の方向性を踏まえて、各業務の設計を実施した

誘致活動に前向きな27都市から、サステナビリティに関するレベル感の異なる計3都市を支援対象とした

支援対象都市の選定プロセス



まずは、MICE誘致活動に前向きな27都市を本事業の支援対象の候補都市に選定した

1 候補都市の選定

候補都市 選定の 方向性

- **MICE誘致活動に前向きな都市**(以下から重複削除)
 1. グローバルMICE都市(12都市)
 2. グローバルMICE都市以外の支援プログラム実施都市(15都市)
 3. 観光庁主催「都市のサステナビリティ推進ワークショップ」(2024年2月実施)参加都市(8都市)

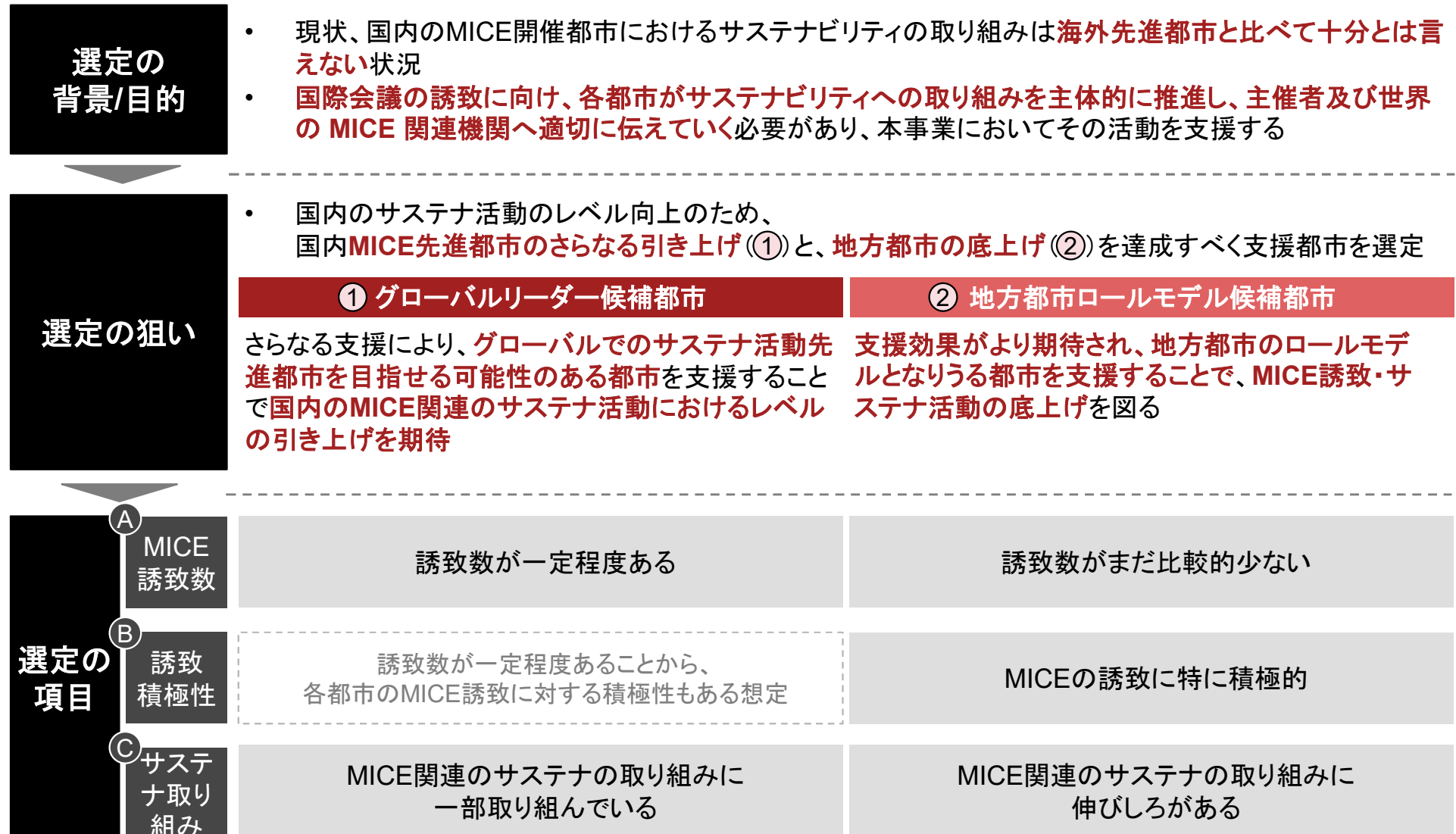
候補都市 選定結果 (27都市)

都市	選定対象項目		
	1. グローバル MICE都市	2. ①以外の支援 プログラム実施 都市	3. 都市のサステ ナビリティ推進 WS 参加都市
札幌市	✓		✓
仙台市	✓		✓
水戸市		✓	
東京都	✓		
千葉市	✓		
横浜市	✓		✓
新潟市		✓	
福井市		✓	
富山県		✓	
静岡市		✓	
岐阜市		✓	
名古屋市	✓		
大阪市	✓		
京都市	✓		

都市	選定対象項目		
	1. グローバル MICE都市	2. ①以外の支援 プログラム実施 都市	3. 都市のサステ ナビリティ推進 WS 参加都市
神戸市	✓		
姫路市		✓	
奈良県		✓	
広島市	✓		✓
岡山市		✓	✓
徳島市		✓	
松山市		✓	
高松市		✓	✓
福岡市	✓		
北九州市	✓		
長崎市		✓	✓
鹿児島市		✓	
熊本市		✓	✓

主体的なサステナ促進に向け、誘致やサステナ取り組みの観点から効果がより期待される都市を抽出した

2 支援都市の選定の目的・狙い・項目



選定に向け、各評価項目に関して、レベル感の異なる評価基準を設定することで絞り込みを実施した

2 選定における評価項目・基準

		選定の方向性	評価項目	評価基準
A	① グローバルリーダー候補都市	誘致数が一定程度ある	a 国際会議開催件数	過去5年(2018年～2022年*)の国際会議開催件数が100件以上500件未満
	② 地方都市ロールモデル候補都市	誘致数がまだ比較的少ない		過去5年(2018年～2022年*)の国際会議開催件数が10件以上100件未満
B	② 地方都市ロールモデル候補都市	MICEの誘致に特に積極的	b MICEの中長期計画・戦略の有無	MICE関連の中長期計画・戦略がある(MICEの文言がない観光戦略内にMICE関連の記載があるものは除く)
C	① グローバルリーダー候補都市	MICEのサステナに一部取り組んでいる	c-1 MICEのサステナ関連の取り組みリスト・体験メニューの有無(プログラム①(i)の実績有無)	左記3つのうち、いずれかの取り組み実績が一つある(2つ以上ある都市は除く)
	② 地方都市ロールモデル候補都市	MICEのサステナの取り組みに伸びしろがある	c-2 MICEのサステナアクションプランの有無(プログラム①(ii)の実績有無)	
			c-3 サステナ関連の都市の認証・評価の有無(プログラム①(iii)の実績有無)	左記3つのうち、いずれの取り組み実績もない

*国内都市の誘致開催は複数年にわたることを考慮し、5年に設定

各評価項目を加味した結果、伴走支援候補都市の6都市から仙台市、横浜市、岡山市の3都市を選定した

2 伴走支援都市の選定結果

赤字: 評価基準に当てはまる項目

✓: あり

—: なし

評価項目		a	国際会議 開催実績(回) ※JNTO基準、 2018~2022年 計	(参考)国際 会議開催実 績(回) ※ICCA基準、 同期間計	b	MICE 中長期計画・ 戦略の有無 ¹⁾	c-1	MICEのサステ ナ関連の取り 組みリスト・体 験メニューの有 無 ³⁾	c-2	MICEに関する サステナアク ションプランの 有無 ⁷⁾	c-3	サステナ関連 の 都市の認証・評 価の有無	(参考)伴 走支援受 け入れ意 向
①グローバル リーダー 候補都 市 (1-2都 市)	評価基準	100~499	-		(評価軸に 含めない)		いずれか1つが✓(2つ以上は除く)					—	
	仙台市	286	69	△	✓ ⁴⁾	—	—	◎					
	横浜市	499	82	✓	✓ ⁵⁾	—	—	○					
	大阪市	376	96	✓	✓ ⁶⁾	—	—	×					
②地方都 市ロー ルモデ ル候補 都市 (1-2都 市)	評価基準	10~99	-	✓	全て—					—			
	岡山市	82	26	✓ ²⁾	—	—	—	◎					
	長崎市	15	5	✓	—	—	—	×					
	鹿児島市	22	3	✓	—	—	—	◎					

貴庁と協議の結果、上記候補から仙台市、横浜市、岡山市を支援対象都市に決定

1) 都市の全体計画や観光計画にMICE推進が含まれている場合は△として記載 2) 2013年に策定
 3) 自治体主体でかつMICEの観点からメニューをまとめている場合に与とする 4) 仙台コンベンションナビに、MICE参加者向けのサステナブルな体験メニューの開発・提供、との記載あり 5) 「MICEにおけるサステナビリティ 横浜の取り組み事例」あり
 6) 大阪観光局が実施しているSDGs for MICE評価制度で評価されたビジネスイベントにおけるSDGsの取り組みを整理
 7) MICE関連に限定しない都市全体としてのサステナに関するアクションプランは除く
 出所: JNTO、観光庁、各自治体HP、各都市コンベンションビューローHP

選定にあたっては、初期的に候補都市にヒアリングし、各都市の課題感やプログラムの実施意向などを確認した

支援対象候補都市への初期ヒアリング結果

都市	(再掲)伴走支援受け入れ意向	現状の取り組み、戦略/計画、発信状況 (デスクトップリサーチで明らかにできなかった点)	サステナ活動に関する課題感	プログラムメニューの実施意向	プログラム受講の人的体制
仙台市	◎	- CBとしての具体的な方針・戦略策定における取り組みは無し。今年は、次年度以降の3か年計画を策定中だがサステナビリティに関しては明確な方向性はない - 自治体からの要望も特になく、CBとして積極的に推進せず	本格的な学びや施策の実施、誘致等に必要なサステナブルなメニュー開発などはできておらず、他の先進都市に比べて取り組みが乏しいと感じる	- 専門的な内容を学べることや主催者向けのメニュー開発は非常に興味が有。但し今期は職員が多忙で、実施の時期や受講人員など要相談 - 来年度からの3か年計画を検討しており、受講した内容を反映したい	CB職員や自治体職員だけでなく、地域のステークホルダーも交えてプログラム受講を検討したい。元々MICE関係者向けに連携促進のために毎年施策を企画していたが、当支援も含めて活用を検討したい
横浜市	○	- 市としてMICE戦略策定を実施 - サステナビリティの取り組みについては主催者からの要望に応じて都度対応	- MICE誘致のサステナビリティに関してCBとしての基準がなく主催者からの要望に都度応じており、誘致力を高めていくには限界がある - メニュー策定をプロポーザル方式で進めているが専門的な知見が無く、有効性に不安	メニュー策定支援をはじめとする専門的な見地からの教育・支援を受け、知見を高め、今後の誘致競争に活用したい	賛助会員など中心に地元の旅行会社やホテル等は巻き込める想定
大阪市	×	—	—	SDGs for MICE 評価制度を今年度開始し、周知などが優先であり、受講は難しい	—
岡山市	◎	- ESDから始まって、サステナビリティに高い関心を持ち、JNTOのSustainable JAPANに取り上げてもらった際に情報整理したが、更新無 - 主催者に対しは、都度ニーズに合わせてサステナビリティの取り組みを提案する提案資料を作成	自治体作成のサステナビリティの取り組みリストは、MICEでの導入を考えると調整が必要。取り組みリストをCBで作成するために自治体へ協力を相談したが消極的	- プロが入ってブラッシュアップをサポートしてもらえる点は非常に興味が有り受講したい - 但し実施時期によっては人員に余裕がないことがあるため、正式に決まったところで要相談	コンベンションに関わるステークホルダーを集めた専門部会では、主催者からもニーズの高いガストロノミーをテーマとして取り上げる予定。サステナビリティの視点を入れてガストロノミーを打ち出していくことも検討したい。
長崎市	×	—	—	繁忙のため受講は難しい	—
鹿児島市	◎	- CBとしては具体的な取り組み方針や戦略は無し - CBでは過去に誘致戦略プランを作成しているが、サステナビリティは含まれず - 鹿児島市は、SDGsの取り組みを掲げているものの具体的な要望もサステナビリティに関しては特に無し	- 本格的に学ぶことや施策を実施することは、これまで出来ていない - ホテルでは一部取り組みんでいるが、CVBで把握できず、生かしていない - 主催者側からユニバーサルツーリズムや食に関する多様な対応は求められるが、CVBとして対応できず	- 鹿児島市の課題を踏まえた講義内容、専門家による伴走支援は非常に興味が有り受講を検討したい。得られた学びは2027年度以降の次期プランに盛り込んでいきたい - ただし実施時期によって繁忙との兼ね合いもあるため改めて正式打診時に検討したい。	- CB職員や自治体職員だけでなく、地域ステークホルダーも交えたい - CVBと地域のステークホルダーと一緒に講義を受講することで、MICE × サステナビリティに関して意識醸成を図りたい

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
(2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)	
ウ) 伴走支援プログラムの構築	
エ) 伴走支援プログラムの提供	

各都市の強み・弱みの分析では、サステナビリティの目標、戦略・計画、取り組み、発信状況を評価した

① 強み・弱みの分析: 各都市のサステナビリティ評価項目

カテゴリ	明らかにすべきポイント	具体的な調査内容
A サステナビリティに関する目標、戦略・計画	自治体・CBとしてのサステナ関連の目標、戦略・計画の有無	・ 自治体・CBとして、気候変動緩和や循環型経済、生物多様性、その他持続可能性に関して定性・定量的な目標があるか
		・ 上記の目標達成に向けた戦略・計画があるか
	都市内の施設やホテル等の事業者としてのサステナ関連の目標、戦略・計画の有無	・ 都市内の施設やホテル等の事業者として、気候変動緩和や循環型経済、生物多様性、その他持続可能性に関して定性・定量的な目標があるか
		・ 上記の目標達成に向けた戦略・計画があるか
B サステナビリティの推進に関する具体的な取り組み	自治体・CBで取り組んでいる主な取り組み内容とその効果	・ サステナ関連での取り組みをどの程度実施しているか
		・ 上記取り組みによる効果はどの程度か
		・ 取り組み内容・効果は第三者から評価されているか
	都市内の施設やホテル等の事業者主導で取り組んでいる主な取り組み内容とその効果	・ サステナ関連での取り組みをどの程度実施しているか
		・ 上記取り組みによる効果はどの程度か
		・ 取り組み内容・効果は第三者から評価されているか
C サステナビリティに関する取り組みの発信状況	官民連携して取り組んでいる主な取り組み内容とその効果	・ サステナ関連での取り組みをどの程度実施しているか
		・ 上記取り組みによる効果はどの程度か
	都市内の取り組みについて国際会議の参加者や主催者への分かりやすい取り纏め・発信	・ 都市内の取り組みについて取りまとめがされているか
		・ 国外の主催者・参加者にも伝わるようなツール・言語で発信されているか

評価にあたっては、Web調査に加え、各都市の市・CBにヒアリングを実施した

仙台市では、市全体の機運醸成の他、各分野の取り組みを底上げする必要がある

仙台市の本事業開始前の取り組み

仙台市の現状の取り組みサマリ

- 市主体の目標・計画や取り組みはあり、市内事業者も独自で取り組みを進めているが、仙台市全体としてサステナへの機運醸成、取り組み推進の継続を図る

カテゴリ	現状の取り組み例
A. 体制・制度	- 市のMICE推進室・CB間での定例会はあるが、サステナ関連の議論はしていない - CB・市ではサステナに取り組んだ主催者向けの助成金の案を検討したが、断念した
B. カーボンニュートラル	- 市は、国から「脱炭素先行地域」に選定された背景で脱炭素モビリティの促進や再生エネルギー活用の実施する他、「エコバランス国際会議」で脱炭素関連での協力を予定 - 仙台国際センターでは、証明のLED化、シェアサイクル設置による省エネ化の取り組みを実施
C. フード	- 市は、フードドライブ・消費期限が近い食品を販売するサービスを提供 - ウェスティンホテル仙台、ホテル佐勘では、フードロス削減に向けた取り組みを実施
D. DEI	- 市では、ムスリム向け飲食店・宿泊施設の情報を提供 - CBの国際課事業部では在日外国人支援を実施しているが、MICE関連での支援はなし
E. 認証・認定、評価制度	- 市・CB・ホテル・会場でのグローバル認証の取得は確認できず - 仙台ロイヤルパークホテルではさくらクオリティを取得

横浜市では、取り組みが全般的に先進的であり、特に脱炭素関連の取り組みに注力している

横浜市の本事業開始前の取り組み

横浜市の現状の取り組みサマリ

- 脱炭素の実現に向け、CO₂削減を中心としたサステナの取り組み及び取り組みの発信等、全般的に進んでいる

：横浜市で注力しているカテゴリ

カテゴリ	現状の取り組み例
A. 体制・制度	- CBと一部施設、賛助会員との連携体制はあるが、サステナについて議論する場はない - CBではコンベンション開催事業補助金を実施しているがサステナ関連では確認できず
B. カーボンニュートラル	- 市は、「横浜市地球温暖化対策実行計画」を策定・改定し、脱炭素社会の実現をめざす - 市の「カーボンニュートラル設備投資助成事業」により、中小企業の省エネ効果を高い設備投資を支援 - パシフィコ横浜では、みなとみらい21熱供給とのカーボンオフセットの提携により取り組みを推進
C. フード	- 市は、フードドライブ・廃棄物削減の啓発活動を実施するも、取り組みへの繋がりが限定的 - 大規模ホテルでは、賞味期限の近い食品の販売等、フードロス削減への取り組みが多数
D. DEI	- 市・CBでは現状の取り組みは確認できず - パシフィコ横浜では、バリアフリー設備やスタッフの多様性への理解促進の取り組みを実施
E. 認証・認定、評価制度	- 市・CB・ホテル・会場でのグローバル認証の取得は確認できず - 大規模ホテル・会場では、横浜市独自の認証制度「Y-SDGs」を取得している施設も存在

岡山市では、市全体として機運醸成の段階にあり、今後、CBとしてフード関連の取り組みに注力する見込み

岡山市の本事業開始前の取り組み

岡山市の現状の取り組みサマリ

- 市や一部ホテルでのサステナに関する取り組みやCBによるフード関連の取り組みはあるが、岡山市全体としてサステナへの機運醸成、取り組み推進の継続を図る

：岡山市で注力しているカテゴリ

カテゴリ	現状の取り組み例
A. 体制・制度	- 市・CB・コンベンションセンター間での定例会があるが、サステナ関連の議論はしていない - 市では省エネなどの一般家庭・事業者向けのサステナ関連の助成金を実施
B. カーボンニュートラル	- 市は、再生エネルギー設備への支援事業やセミナーの開催等の複数取り組みを実施 - ホテルグランヴィア岡山では、照明のLED化、節水等による省エネルギー化の取り組みを実施
C. フード	- 市では、フードロス調査事業、啓発活動、ムスリム対応の飲食店の認証制度を実施 - CBでは今後、岡山産の食材を会議主催者にPR等を行うガストロノミーに関する取り組みを実施 - ホテルグランヴィア岡山では、宴会でのフードロス対策や「TABETE」アプリとの連携を実施
D. DEI	ホテルグランヴィア岡山では外国人や障がい者の雇用の推進、人権研修などを実施
E. 認証・認定、評価制度	- 市では、ムスリム対応した飲食店・事業者向けの「ピーチマーク制度」を策定 - ホテル・会場での取り組みは確認できず

昨年度事業を踏まえ、高松市では、サステナ分科会を設定した他、市の戦略にサステナ関連の事項を記載

昨年度事業開始前の状況を踏まえた現状の取り組み(高松市)

昨年度事業開始前の状況

現状の取り組み状況

官民連携

- サステナテーマで議論する場の不足
 - CBや市内事業者と意見交換する場が限られており、サステナビリティに関して、互いの取り組み状況を理解していなかった

- サステナ分科会の設定
 - 会議室・ホテル・県・市・CBが参加する施設間定例会が元々年4回実施されており、新たにサステナ分科会を設けて協議を進めている

市CB

- 組織内での独自の取り組み推進
 - CBの内部でも一部取り組みを進めていたが、組織が縦割りのために他部門・部署の活動内容を把握していなかった

- 戦略へのサステナ関連の記載
 - 「高松市第2次MICE推進戦略」にサステナビリティに関する項目を含めた
 - 一方で、上記に関する具体的な取り組みは実施されていない

施設

- 大企業が独自に取り組みを推進
 - あなぶきエンタープライズや、大成建設等の大企業の一部は金銭面で余裕があるため、独自に取り組みを進めていた
 - 一方で多くの施設が、環境負荷が低い製品を利用する際のコスト面が課題となり、取り組みが進んでいなかった

- 大企業の継続的なサステナ推進
 - あなぶきエンタープライズや、大成建設等の大企業の一部は、昨年度での施設視察時の意見交換も踏まえ、継続してサステナビリティに関する取り組みを推進している
 - 一方で多くの施設に関しては、依然として取り組みに至っていない

一方で熊本市では、意見交換会による市内事業者の機運醸成に加え、市の戦略にサステナ関連の事項を記載

昨年度事業開始前の状況を踏まえた現状の取り組み(熊本市)

昨年度事業開始前の状況

現状の取り組み状況

官民連携

- サステナビリティに対する機運の低さ
 - CBや市内事業者を含め、サステナビリティに対して関心度が低いために連携されておらず、互いの取り組み状況を理解していなかった

- 意見交換会の実施
 - 旅館ホテル組合から声掛けがあり、9月末にMICEに関する第1回意見交換会を実施し、CBからサステナ推進の必要性を伝えた

市CB

- MICEにおけるサステナビリティの重要性に関する認識不足
 - MICEにおいて、世界的にサステナビリティが重要であると認識しておらず、戦略や取り組みにサステナビリティが考慮されていなかった

- 戦略へのサステナ関連の記載
 - 今年度に「第2期熊本市MICE誘致戦略」が改定され、サステナビリティについて記載した
 - 一方で、上記に関する具体的な取り組みは実施されていない

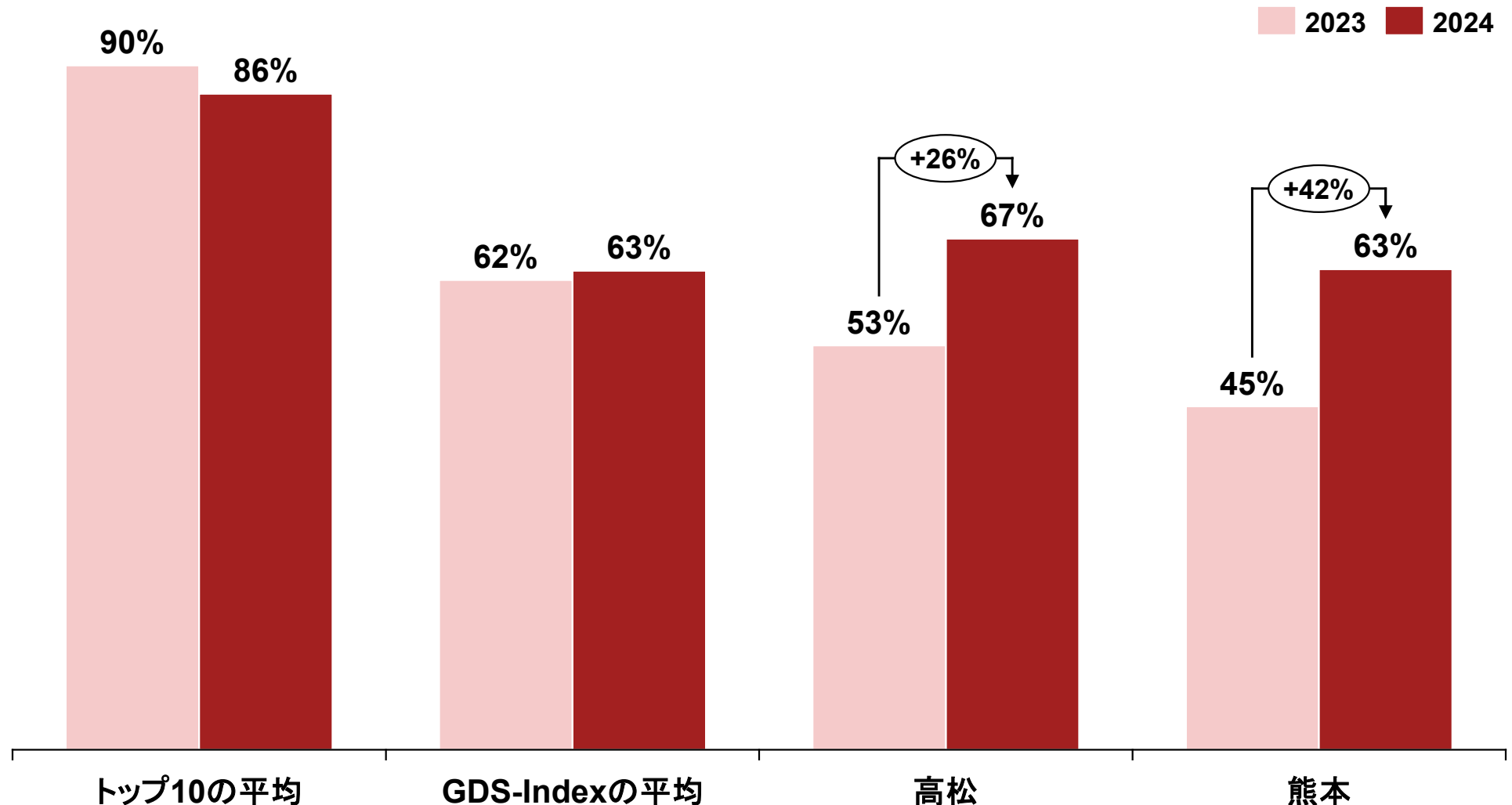
施設

- 一部企業が独自に取り組みを推進
 - ホテル日航や熊本城ホールは独自に取り組みを進めていた
 - 一方で多くの施設が、そもそも機運が醸成されておらず、取り組みが進んでいなかった

- 意欲的な事業者の取り組み継続
 - ホテル日航や熊本城ホールではサステナ取り組みに元々意欲的であるため継続して取り組んでいる
 - 一方で多くの施設に関しては、依然として取り組みに至っていない

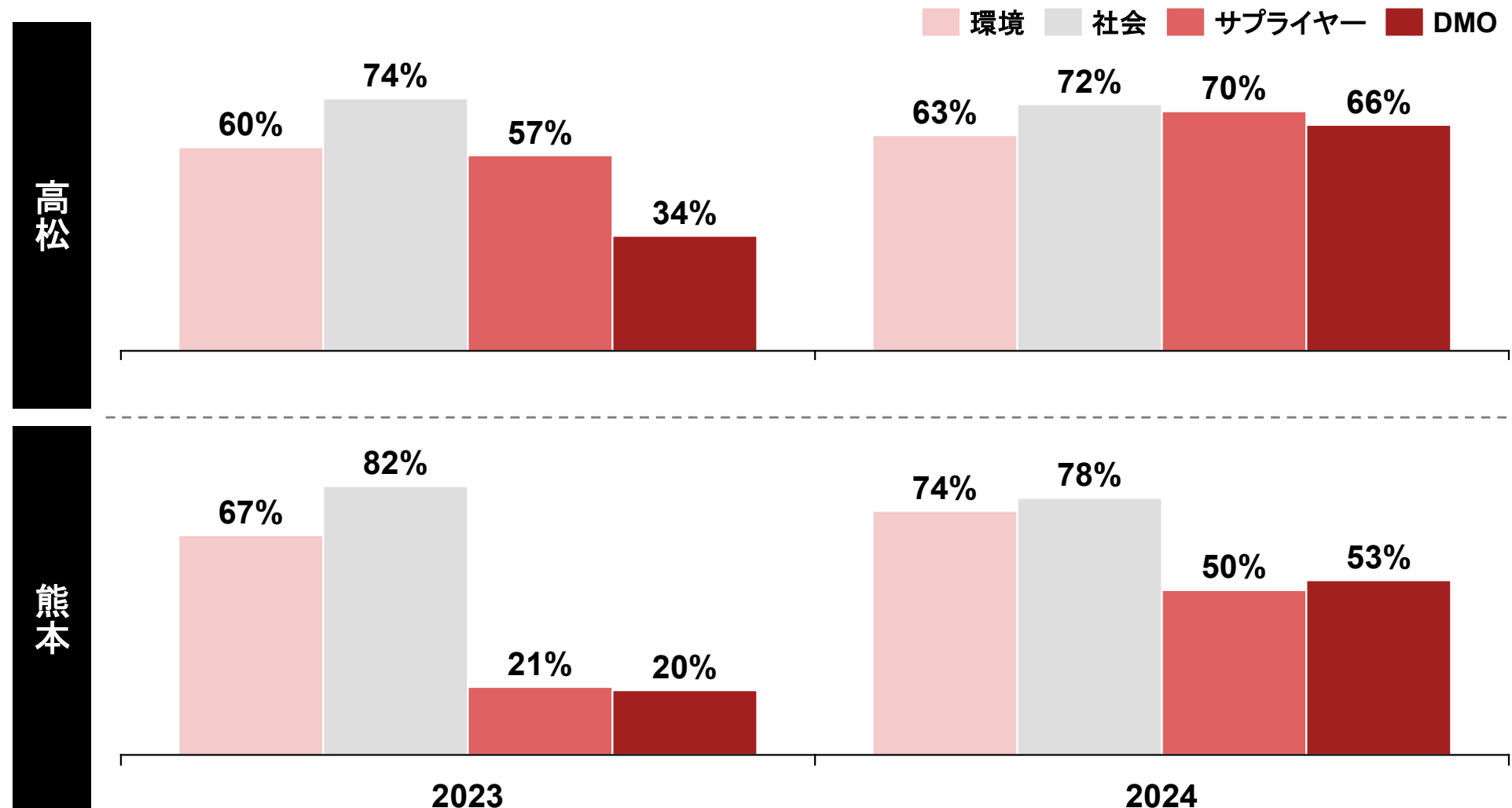
両都市が取り組みを推進した結果、昨年度からスコアを伸ばし、GDS-Indexの平均を上回るスコアを獲得した

GDS-Indexのパフォーマンス推移(総合スコア)



またカテゴリ別には、高松はDMO、熊本はサプライヤー・DMOにおいて、約30%の顕著な改善がみられた

GDS-Indexのパフォーマンス推移(カテゴリ別スコア)



熊本市は昨年度からの取り組みの成果として、今年度のGDS-Indexにおいて「Most Improved Award」を受賞

熊本市のGDS-Indexでのアワード授賞

ベルギーでの授賞式の様子



アワードのトロフィー



GDS内の4つの賞のうちの1つである「Most Improved Award 2024」
(前年比で最もGDS-Indexのスコアが伸びた都市に贈られる賞)を受賞(アワードの受賞は日本初)

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
 (2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)	
 ウ) 伴走支援プログラムの構築	
(i) 伴走支援プログラムの目的・目指す成果	
(ii) 伴走支援プログラムの内容	
エ) 伴走支援プログラムの提供	

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
 (2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)	
 ウ) 伴走支援プログラムの構築	
 (i) 伴走支援プログラムの目的・目指す成果	
①「支援都市内で実施しているサステナビリティへの取組リスト」「主催者や利用者に対し提供できるサステナビリティな体験リスト」の作成	
②MICE におけるサステナビリティアクションプランの作成	
 (ii) 伴走支援プログラムの内容	
エ) 伴走支援プログラムの提供	

取り組みまとめ資料、5か年計画は、都市別研修での講義、ワークショップやお打ち合わせを踏まえ作成した

本事業の成果物作成の流れ



各都市の市・コンベンションビューローの皆様と適宜お打ち合わせも実施し、方向性を擦り合わせ

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
 (2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)	
 ウ) 伴走支援プログラムの構築	
(i) 伴走支援プログラムの目的・目指す成果	
①「支援都市内で実施しているサステナビリティへの取組リスト」「主催者や利用者に対し提供できるサステナビリティな体験リスト」の作成	
②MICE におけるサステナビリティアクションプランの作成	
(ii) 伴走支援プログラムの内容	
エ) 伴走支援プログラムの提供	

サステナ取り組みまとめ資料の作成により、現状把握、各ステークホルダーへの啓発、主催者へのPRを図る

「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」作成の目的・アジェンダの例

目的

1. 市内のサステナ取り組み状況を把握し、整理する
2. 市内の各ステークホルダーのサステナ取り組みを推進する
3. 国際会議主催者に対し、市内の取り組み状況をアピールする

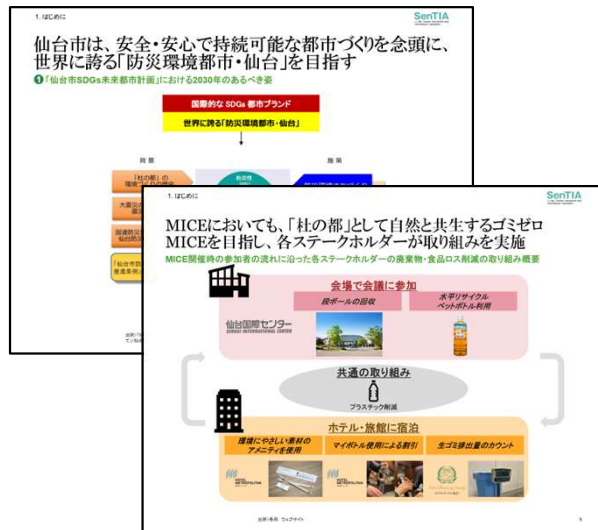
資料 アジェンダ の例 (仙台市)

1. はじめに
2. 分野別の取り組み
 - 2-1. 廃棄物・食品ロス削減の取り組み
 - 2-2. その他の取り組み
3. 実施主体ごとの取り組み
 - 3-1. 自治体・CBの取り組み
 - 3-2. 会場の取り組み
 - 3-3. 宿泊施設の取り組み
 - 3-4. その他の取り組み

「都市のサステナビリティ取り組みまとめ資料」では、各都市の現状としての重点的な取り組みを中心に整理した

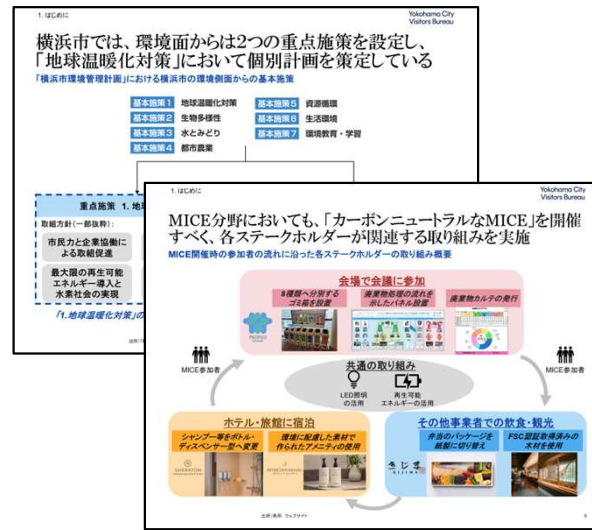
各都市の「都市のサステナビリティ取り組みまとめ資料」(一部抜粋)

仙台



杜の都や防災をテーマの
取り組みを中心に整理

横浜



カーボンニュートラル関連の 取り組みを中心に整理

岡山



食品ロス関連の
取り組みを中心に整理

詳細は各都市の「都市のサステナビリティ取り組みまとめ資料」参照

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
 (2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振り返りも含む)	
 ウ) 伴走支援プログラムの構築	
 (i) 伴走支援プログラムの目的・目指す成果	
①「支援都市内で実施しているサステナビリティへの取組リスト」「主催者や利用者に対し提供できるサステナビリティな体験リスト」の作成	
 ②MICE におけるサステナビリティアクションプランの作成	
 (ii) 伴走支援プログラムの内容	
エ) 伴走支援プログラムの提供	

CB主体のMICEのサステナ計画の策定により、都市としての目標を明確化し、取り組み推進時の指針とする

「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」策定の目的・アジェンダの例

目的

1. 都市内のサステナ推進に向け、都市として目指すべき姿やCB主体で取り組むべき事項の具体化・明確化
2. 上記に関して、市・ホテル・会場等の各ステークホルダーとのサステナ推進における共通認識を形成

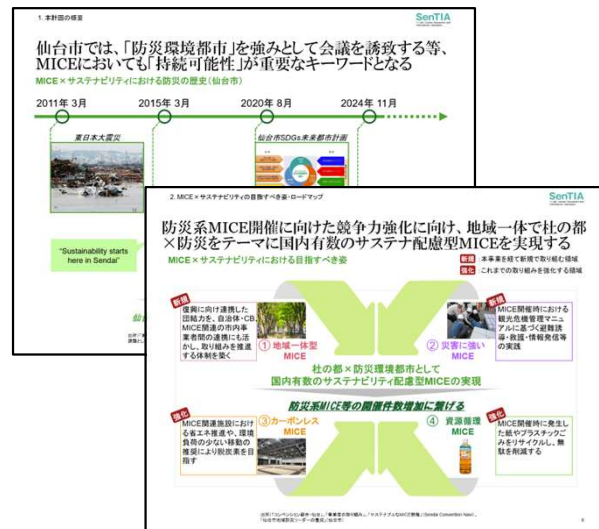
資料 アジェンダ の例 (仙台市)

1. 本計画の概要
2. MICE × サステナビリティの目指すべき姿・ロードマップ

「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」では、各都市の現状・課題をもとに目標・マイルストーンを設定

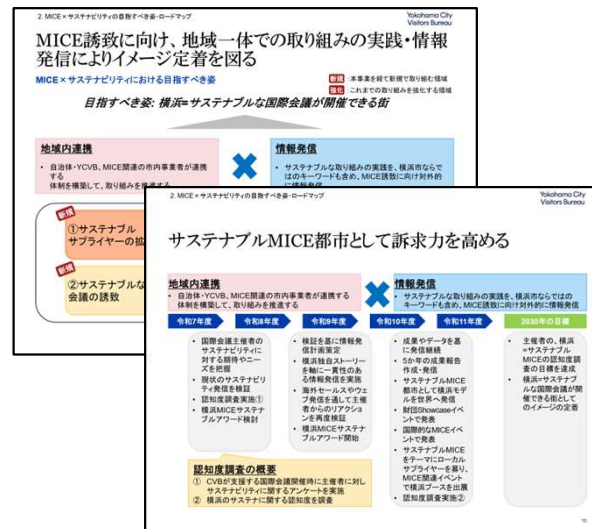
各都市の「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」(一部抜粋)

仙台



特に防災をテーマに、有事の際の対応が可能なMICEを実現することにより、開催件数の増加に繋げる

横浜



全般取り組みを進めるとともに、情報発信も注力領域として定め、横浜市=サステナブルな国際会議が開催できる街としてのイメージ定着を図る

岡山



食品ロスやDEI対応等の領域に注力し、マイノリティを含むMICEの開催件数増加に繋げる

仙台では、MICEでの災害時対応に向けた環境整備や、食以外の分野も含めた資源循環の実現等を目指す

サステナ取り組みに関する現状と、5か年計画の目標(仙台市)

新規 : 本事業を経て新規で取り組む領域

強化 : これまでの取り組みを強化する領域

本事業開始前の取り組み状況

5か年計画における目標

推進体制			
取り組みの実践		- サステナテーマの連携不足 - 市のMICE推進室とCB間での定例会はあるが、サステナテーマで議論はしていない	新規 地域一体型MICEの実現 - MICE市内関係者との定例会を実施 - 市内事業者の取り組みを更に調査し、資料化/Web上に掲載(掲載率の向上)
	災害への対応	- 市内の災害対応人材を育成 - 市として、「仙台市地域防災リーダー(SBL)」を育成している - MICEでの災害対応の体制は弱い	新規 災害に強いMICEの実現 観光危機管理マニュアルに沿った受入環境の普及及び実践 - 協会が誘致したMICEでの環境整備100%
	カーボンニュートラル	- 限定的な省エネ化 - 市内のMICE開催施設において、照明のLED化やシェアサイクルの設置等を行うも、効果を数値化できていない	強化 カーボンレスMICEの実現 「CO₂排出量測定モデル」を活用し、MICE開催時のCO₂排出量削減 - 電力消費量を令和8年度比30%削減
	廃棄物処理	- 食分野での循環形成 - 市内の事業者間の連携により食品ロスを活用した堆肥の育成を行っている - 食以外での資源循環はできていない	強化 資源循環MICEの実現 MICE開催時の、リサイクル可能な資源に関して、定量目標を達成

杜の都×防災環境都市として、国内有数のサステナビリティ配慮型MICEの実現により
防災系MICE等の開催件数増加に繋げることを目指す

横浜では、財団のサステナ推進と主催者への体験提供をPRすることで、サステナを重視した会の誘致を図る

サステナ取り組みに関する現状と、5か年計画の目標(横浜市)

新規 : 本事業を経て新規で取り組む領域

強化 : これまでの取り組みを強化する領域

本事業開始前の取り組み状況

5か年計画における目標

MICE × サステナビリティ の結び付け

- ・ **誘致時の受動的なアピール**
 - － 主催者からサステナビリティに関して問い合わせがあった際には、市内事業者等の取り組みをアピール

新規

サステナブルな会議の誘致

- － 年間の誘致提案書のうち、横浜市の重点施策に合致し、**サステナビリティを重視した国際会議への誘致提案書率を30%達成**

財団(協会) 内のサス テナ推進

- ・ **財団の限定的な取り組み**
 - － 市内事業者が取り組みを進める中、財団として取り組みが発展途上の段階にあり、“Y-SDGs”の取得もしていない

新規

財団内のサステナビリティ推進

- － **Y-SDGs Superior取得**
- － 財団のサステナビリティポリシーに基づいて取り組みを推進

取り組みの実践

主催者への サステナ 体験の提供

- ・ **サステナブルサプライヤーリストの整備開始**
 - － 市がサステナブルな事業者一覧をまとめており、本事業後に完成予定
- ・ **サステナブルツアーの提供**
 - － MICE開催時に参加者が体験できるサステナブルツアーを用意しているが、利用率や消費額等の現状を把握していない

強化

サステナブルサプライヤーの拡大

- － YCVBが支援する**会議案件の80%で市内サステナブルサプライヤーを活用**

強化

サステナブルコンテンツを活用した市内周遊促進

- － YCVBが支援する**国際会議の50%で参加者向けサステナブルプログラムを実施**

上記実現に向けた地域内連携での連携、適切な情報発信による主催者へのアピールを通じ、
「横浜=サステナブルな国際会議が開催できる街」を目指す

岡山では、食品ロスやDEI等の現状の取り組み強化や、新規にサステナテーマの推進体制構築を目指す

サステナ取り組みに関する現状と、5か年計画の目標(岡山市)

新規 : 本事業を経て新規で取り組む領域

強化 : これまでの取り組みを強化する領域

本事業開始前の取り組み状況

5か年計画における目標

推進体制			
取り組みの実践		- サステナテーマの連携不足 - 市・CB・コンベンションセンター間の定例会はあるが、サステナテーマでの議論は行われていない	新規 地域一体型MICEの実現 - MICE市内関係者との定例会を実施 - 市内事業者の取り組みを更に調査し、資料化/Web上に掲載
	カーボンニュートラル	- 限定的な省エネ化 - 市内のMICE開催施設において、照明のLED化や契約電力量の見直しを行うも、効果を数値化できていない	強化 省エネMICEの実現 「CO₂排出量測定モデル」を活用し、MICE開催時のCO₂排出量削減 - 電力消費量も同様に削減
	フード関連	「ガストロノミー」による活性化を標榜 - 今後、市全体として「ガストロノミー」をテーマに、食に関する地元の活性化を図る	強化 食品ロスゼロMICEの実現 - MICE開催時の食品ロス量を把握した上で、削減目標を設定 協会が誘致に関与した際に削減目標達成
	DEI関連	- ムスリムの受入環境整備 「ピーチマーク制度」を策定した 「おかやまムスリムおもてなしハンドブック」を作成した	強化 DEIに配慮したMICEの実現 - DEIを打ち出す誘致ポリシーを検討 DEIへの対応が可能なMICEを継続的に誘致・開催

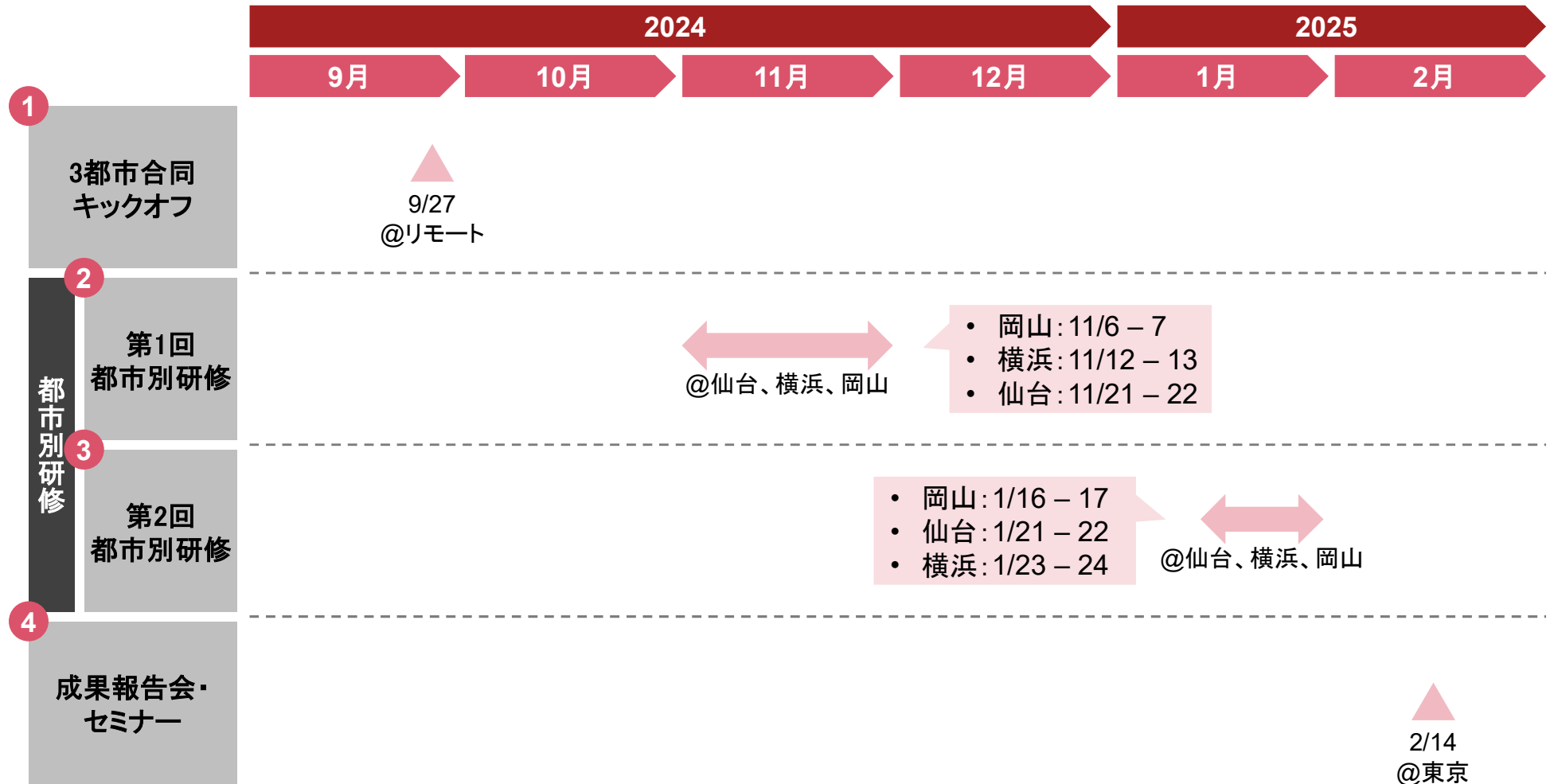
食品ロス削減×DEIへの配慮をテーマに地方有数のサステナビリティ配慮型MICEの実現によりマイノリティを含むMICE等の開催件数増加に繋げることを目指す

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
 (2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)	
 ウ) 伴走支援プログラムの構築	
(i) 伴走支援プログラムの目的・目指す成果	
 (ii) 伴走支援プログラムの内容	
エ) 伴走支援プログラムの提供	

伴走支援プログラムは、3都市合同キックオフ、各都市での2回の都市別研修、成果報告会・セミナーを実施

伴走支援プログラムのスケジュール



各会の間にも各都市の皆様と適宜オンラインで打ち合わせにより擦り合わせを実施

3都市合同キックオフでは、プログラムの概要を説明する 他、総論やDEI講義も実施

① 3都市合同キックオフの実施プログラム概要

コマタイトル	概要
① MICEのサステナビリティに関する導入 講義1: 総論	- MICEにおけるサステナビリティについて、導入として以下2つを主に講義 “サステナビリティ”という概念・言葉を、どのように捉えたらよいか(世界全体およびMICE業界の動向を踏まえて) - 国内主要MICE都市として、「攻め」と「守り」の両面から、どのような観点で取り組みを進める必要があるか
② MICEのサステナビリティに関する導入 講義2: DEI講義	DEIのエッセンスや具体対応事例のご紹介(LGBTQ+の参加者向け対応事例、受入体制としての障がい者対応等)

第1回都市別研修では、総論や先進事例の紹介、施設視察の他、成果物作成に向けた洗い出しを実施

② 第1回都市別研修の実施プログラム概要

：世界的な潮流調査に関するプログラム

コマタイトル	概要
③ MICE × サステナビリティ総論	キックオフで実施した「MICEのサステナビリティに関する導入講義1: 総論」を、都市別研修から参加した方向けに要点を絞り実施
④ 先進都市・施設の取り組み講義	MICEにおけるサステナビリティ関連の都市・施設の取り組みとして、国内外の先進的かつ各都市が取り組みを推進する上で参考となる事例をご紹介
⑤ 施設視察	MICEに関連する市内の施設(会場・宿泊施設・ユニークベニュー等)を訪問し、サステナビリティに関する現状の取り組みや今後の方向性等について意見交換
⑥ 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」作成講義・ワークショップ	「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」の作成に向け、先進事例のご紹介、および本事業での作成イメージのご共有 - 参加された市内ステークホルダーの取り組みを洗い出し、市としてどのような取り組みが行われているか把握
⑦ 「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」策定講義・ワークショップ	「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」の策定に向け、先進事例のご紹介、および本事業での作成イメージのご共有 - 今後の方向性や計画に盛り込む内容検討の材料とするため、市内の現状の取り組み状況や、課題について初期的に整理

第2回都市別研修では、CO₂、フード、地域内連携等の講義の他、成果物の修正案を検討

③ 第2回都市別研修の実施プログラム概要

：世界的な潮流調査に関するプログラム

：CO₂排出量測定モデルに関するプログラム

コマタイトル	概要
⑧ サステナビリティに関する世界的潮流講義	主催者・参加者の意識調査や世界的潮流調査結果の共有
⑨ CO ₂ 関連講義(カーボンニュートラル関連講義/CO ₂ 排出量測定モデル説明)	- 脱炭素が求められる世界的背景やカーボン測定の目的と対象範囲等に関する講義 - 昨年度観光庁事業で作成したCO₂排出測定モデルの使い方講義
⑩ フード関連講義(調達~廃棄・認証関連含む)	(前半)外部講師の方による、フードサステナビリティの基礎知識、食が及ぼす影響(課題)等についての講義 (後半)外部講師の方による、自都市で取り組めることについて検討するワークショップ
⑪ 地域内連携関連講義	(前半)外部講師の方による、異業種連携における地域マネジメントについて学ぶ講義 (後半)立場・価値観・利害の異なる各ステークホルダー間の連携アクションを検討するワークショップ
⑫ 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」のご共有	「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」の現状版のご共有 - 取り組みが様々ある中で、何を市としてよりPRすべきか、強調したいストーリーはなにか等を検討
⑬ 「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」のワークショップ	「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」の現状版のご共有 - 各ステークホルダーの目標や取り組み状況を踏まえ、計画を基に取り組みを推進する上で何が実現可能か検討するワークショップ

成果報告会・セミナーでは、本事業の成果物共有の他、誘致のポイントや新しいスタンダード等の講義を実施

④ 成果報告会・セミナーの実施プログラム概要

：世界的な潮流調査に関するプログラム

コマタイトル	概要
⑭ 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」、「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」の概要説明	本事業での「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」、「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」の作成背景・目的、作成過程の共有
⑮ 各都市の発表	本事業の支援都市(仙台市、横浜市、岡山市)による「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」、「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」のご発表
⑯ 各都市とのパネルディスカッション(講師陣からのコメント含む)	- 本事業での支援を通じた活動・気づきのご共有 - MICE×サステナビリティにおける現状の取り組み、課題、今後の方向性等をテーマとしたディスカッション
⑰ MICE×サステナビリティに関するセミナー	- サステナビリティの世界潮流・動向、MICE×サステナビリティの概要・世界潮流・重要テーマのご説明 - MICE×サステナにおける海外・国内先進事例のご紹介。国際会議主催者・参加者のサステナビリティへの意識に関するアンケート結果の共有
⑱ GDS-Indexを踏まえたMICE誘致のポイント・トレンド	外部講師の方による、MICE×サステナにおける国際的な潮流、GDS-Indexの概要、GDS-Indexの評価基準に基づいた誘致におけるポイントのご説明
⑲ 「GSTC MICE スタンダード」のご紹介	外部講師の方による、「GSTC MICE スタンダード」の概要、活用方法のご説明

各都市別には、サステナ取り組みの熟練度や注力している領域を踏まえ、プログラムを調整した

各都市別の実施プログラム留意点

 : 必須プログラム

コマタイトル		各都市で留意すべきポイント		
		横浜市	仙台市	岡山市
第1回都市別研修	④ 先進都市・施設の取り組み講義	- 横浜市の取り組みの進展度を踏まえ、サステナ取組のレベル感が近い海外都市を含め紹介 - 認証・認定は、補助金やその他支援体制等を紹介	- 広く浅く、サステナに関して知識の無い方も分かる内容を講義 - サステナ取組のレベル感がかけ離れていない国内都市を中心に紹介 - 認証・認定は簡潔に紹介	- 自治体(市)に対しては、政令指定都市の事例を紹介すると効果的 - 認証・認定は簡潔に紹介
	⑥ 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」作成講義・ワークショップ	取り組み単位で主催者に提示を求められることも想定して作成	施設に留まらず、ケータリング業者等幅広いステークホルダーを巻き込んで要素出しをした上で整理	CB・市内事業者の取り組みが進んでおらず、間接的にサステナと言える取り組みも整理
	⑦ 「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」策定講義・ワークショップ	- 都市として目指す姿を明確化 - 都市としてのポリシーの有無が聞かれることが多く、主催者により効果的にアピールできる書き方で策定	サステナ×国際会議のイメージがついていないステークホルダーが多いため、取り組みの意義や効果の説明を含め講義	—
第2回都市別研修	⑨ CO ₂ 関連講義(カーボンニュートラル関連講義/CO ₂ 排出量測定モデル説明)	市として脱炭素に注力していることを念頭に、世界的なトレンドとして、より発展的な内容を紹介	—	—
	⑩ フード関連講義(調達~廃棄・認証関連含む)	市として脱炭素に注力していることから、カーボンニュートラルに絡めて講義	市内事業者の水産認証を取得している件数が多いことを念頭に、認証の重要性を含めて講義	現在CBとして取組を検討しているガストロノミー関連も含めて講義
	⑪ 地域内連携関連講義	2027年に横浜で開催される「GREEN×EXPO 2027」に絡めた地域内の連携に関して講義・ワークショップを実施	観光レジリエンスに絡めた地域内での連携に関して講義・ワークショップを実施	フードを絡めた地域内での連携に関して講義・ワークショップを実施
	⑫ 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」のご共有	⑪と同様		
	⑬ 「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」のワークショップ	⑫と同様		

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
 (2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振り返りも含む)	
ウ) 伴走支援プログラムの構築	
 エ) 伴走支援プログラムの提供	
(i) 各都市にて実施	
(ii) 集合型プログラム	

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
 (2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)	
ウ) 伴走支援プログラムの構築	
 エ) 伴走支援プログラムの提供	
(i) 各都市にて実施	
(ii) 集合型プログラム	

第1回都市別研修では、仙台市ではサステナへの機運醸成や本事業の成果物作成に向けた初期的な議論を行った

第1回都市別研修の概要(仙台市)

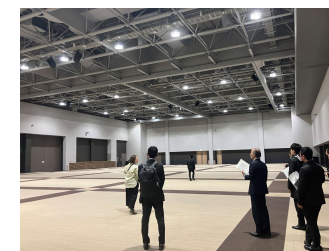
実施概要	
日時	11/21 13:00-17:00 11/22 9:00-14:10
参加者	仙台市、仙台市観光協会、各施設・団体
アジェンダ	【11/21】 - サステナビリティに関する潮流講義 - MICE × サステナビリティに関する導入講義、国内先進事例の紹介 - 施設視察 - 仙台国際センター、ホテルメトロポリタン仙台で実施 【11/22】 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」作成講義・ワークショップ - 仙台市、仙台コンベンションビューロー、ホテルモントレ仙台、仙台国際センター等が参加 「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」策定講義・ワークショップ - 同上 - 施設視察 - ホテルモントレ仙台で実施



Day1
講義の様子



Day2
講義・WSの様子



仙台国際センター
視察の様子



ホテルモントレ仙台
視察の様子



ホテルメトロポリタン仙台
視察の様子

現地視察では、MICE施設のサステナの一環の取り組みの改善方法やストーリー性を用いたPR等のアドバイスを得た

仙台市での施設視察での施設関係者・有識者の主なコメント

: 会場

: 宿泊施設

仙台国際センター

仙台国際センター
SENDAI INTERNATIONAL CENTER

営業・
企画部

- ・ 展示棟展示室では、照明のLED化・バリアフリー化を実施
- ・ 会議棟では、今後安全性を担保した改修を行う予定

- ・ 今後、**現状の設備・木材等のリサイクルを念頭に置いた改修を行う**とよりよい


外部講師

ホテルメトロポリタン仙台

HOTEL
METROPOLITAN
SENDAI JINBAI

総支配人
室

- ・ レストランにおける東北の食材利用率の数値を管理・報告
- ・ エレベーター等に仙台の「飾り工具」モチーフを採用

- ・ 地産地消や仙台市の文化を取り入れていることを**ストーリー性を持たせPRすると効果的**である


外部講師

ホテルモントレ仙台

Hotel Monterey Sendai
ホテルモントレ仙台

総務課
課長

- ・ 生ゴミの排出量を測定し、毎月本部に報告
- ・ 客室に節水シャワーヘッドの設置の他、下水の流量を測定

- ・ 本部への報告に限らず、**自社でサステナレポートを作成し、部門ごとの目標設定を**すると更に良い


外部講師


総支配人
室

- ・ 客室のアメニティで竹素材を利用したことがインバウンド客から高評価

- ・ インバウンド客の要望を意識したサステナの一環の取り組みを今後取り入れていくことが重要


外部講師

ワークショップ(WS)においては、各施設の代表者が取り組みを共有し、廃棄物関連の取り組みが多く確認できた

仙台市での「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」にて挙げられたサステナへの取り組み

カテゴリ	取り組み概要	主体
A. 体制・制度	- 賛助会員・大学教授とのSDGs研究会を不定期に実施 - 経営企画課での第三者委員会においてサステナの取り組みを議論 - 旅行組合の総会にて他社のサステナの取り組みを共有・議論	- 仙台市観光協会 - 仙台国際センター - 作並温泉旅館組合
B. カーボン ニュートラル	- 清掃関連会社と契約し、段ボール等の回収を委託 - 客室内でのペットボトル削減、エコ清掃の推奨 - 照明のLED化 - レストランから出る生ゴミの堆肥化・肥料への活用 - イベントで用いた和紙の再利用、関連したワークショップを開催 - 地域内で伐採された桜の木を活用したアロマウッドを販売	- 仙台国際センター - ホテルモントレ仙台 - 仙台国際センター等 - 緑彩館 - 緑彩館 - 作並温泉旅館組合
C.フード	農産物の研究開発・販売による地産地消の推奨	作並温泉旅館組合
D. DEI	- 従業員へのカスハラ対策指針策定・発信 - 会議室・ホール等のバリアフリー化	- 緑彩館 - 仙台国際センター
E. 認証・認定、 評価制度	仙台市独自の認定制度「エコにこマイスター」取得	仙台国際センター等

大手事業者は個別に取り組みを推進しているが、市全体のストーリー構築・PRに改善の余地がある

仙台市「サステナ取り組みまとめ資料」・「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」策定講義・WSにて挙げられた課題

課題の整理軸

仙台における具体例

MICE × サステナにおいて仙台らしいストーリーをもって、各主体が一丸となって推進できていない	各主体が一丸となった推進ができていない	行政(市・CB)がサステナにおいて連携できていない	- MICE担当部署とサステナ担当部署が独自にサステナに取り組んでいるため、横断した取り組み・計画策定ができていない CBは、市のMICE担当部署、サステナ担当部署とサステナに関する議論の場が少なく、連携が限定的である
		行政(市・CB)と市内事業者の連携ができていない	CBは賛助会員とコネクションがあり、以前SDGsに関する勉強会を実施したが、定期的な会議体等の連携の場がない
		市内事業者間のサステナにおける連携ができていない	個人的な繋がりや特定業種内での定例会・協議会があるが、サステナに関しての情報交換は限定的
	仙台らしいストーリーが構築できていない	【行政・CB】誘致につなげることも見据えた、地域全体での目指すべき姿を明確にするストーリー構築ができていない	「杜の都」等の仙台らしさやMICEターゲットのニーズを踏まえたサステナの取り組みの優先度付けや地域全体の目指すべき姿のストーリー設計・プロモーションには至っていない - 上記を検討する上で前提となる事業者の取り組みを包括的に把握するための場・システムがない
		【大手事業者】CSRとしてのサステナの取り組み・グループの目標をもとにした取り組みが大半	- 大手事業者では、グループ本部で決定された取り組み・目標に従ってサステナへの取り組みを実施している(例: ホテルメトロポリタン仙台は、JRホテルグループの指針に沿って推進) 幅広い取り組みを実施できているが、何をアピールすればいいかわからない(仙台国際センター)
		【中小事業者】サステナの必要性を認識しておらず、何をやればよいかわからない	費用対効果で検討する場面が多く、サステナに取り組む重要性を強く認識していない

MICE、サステナ双方の今後の目標を踏まえ、「杜の都」等のストーリー性を持たせ、差別化を図るべきと認識

仙台市での「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」講義・WSにて挙げられた今後の目指すべき姿

MICE関連の目指すべき姿

- 市のKGI(経済波及効果)を軸としたICCA基準の国際会議の誘致数の増加を図る
 - 経済波及効果(会議件数×参加者数)が高い会議の誘致強化
 - 東北大学との連携等による医学、理工学分野の国際会議の誘致力強化



サステナ関連の目指すべき姿

- 「防災環境都市」・「杜の都」のブランドを生かしたサステナの取り組みの推進を図る
 - 安全・安心で持続可能な都市づくりを強化する
 - 歴史・自然の豊かさを維持し、地域住民がすみやすい街づくりを継続する

MICE×サステナ関連の目指すべき姿

- 仙台ならではのストーリー性を持たせる形で他地方都市との差別化・誘致力の強化(サステナへの取り組みを誘致への武器の一つとしたい)
 - 街のコンパクトさ、自然の多さ、歴史等が仙台の特徴であるため、「杜の都」等をキーワードに、サステナを絡めた形での街のPRをするストーリー構築を行いたい
 - 行政として整理したストーリーに地域住民・事業者も巻き込む形で、都市全体のサステナへの継続的な機運醸成を図りたい(誘致のためだけのサステナビリティの取り組みは継続的に行うことが難しいため、地域住民にもメリットがあるような仕組みづくりをしていきたい)

横浜市でも、サステナ関連講義の受講、取り組みまとめ資料・5か年計画作成に向け議論等を実施

第1回都市別研修の概要(横浜市)

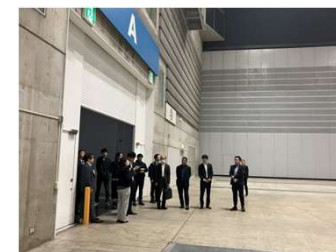
実施概要	
日時	11/12 13:00-17:00 11/13 10:30-15:50
参加者	横浜市、横浜市観光協会、各施設・団体
アジェンダ	【11/12】 - サステナビリティに関する潮流講義 - MICE × サステナビリティに関する導入講義、国内・海外先進事例の紹介 - 施設視察 - パシフィコ横浜、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズで実施 【11/13】 - 施設視察 - 三溪園で実施 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」作成講義・WS - 横浜市、横浜市観光協会、パシフィコ横浜、株式会社きじま、大川印刷等市内事業者が参加 「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」策定講義・ワークショップ - 同上



Day1
講義の様子



Day2
講義・WSの様子



パシフィコ横浜
視察の様子



三溪園
視察の様子



横浜ベイシェラトン
ホテル&タワーズ
視察の様子

現地視察では、サステナの推進方針や今後のプロモーション方法についてのアドバイスを有識者から得た

横浜市での施設視察での施設関係者・有識者の主なコメント

■ : 会場 ■ : 宿泊施設 ■ : ユニークベニュー

パシフィコ横浜

営業
推進部

- ・ 廃棄物リサイクルのために**7種類に分別するゴミ箱を設置**
- ・ ゴミは回収後、10の用途に分けられ再利用
- ・ 今後、廃棄物100%リサイクルを目標として設定



- ・ ゴミ箱に分別方法がわかりやすいように写真や説明を記入している点が効果的である

外部講師

営業
推進部

- ・ ノース会場では、トイレ等をピクトサインでわかりやすく表示
- ・ **男女別の祈祷室を設け、パーテーションや水洗い場を設置**
- ・ 赤ちゃん休憩ルームを新設

- ・ 施設単体として取り組みが十分なため、**ストーリー性を持たせたうえでのプロモーション**が必要

外部講師

横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

施設部長

- ・ レストランの生ゴミを**リサイクル機械にて堆肥化し、農家に提供**
- ・ 大宴会場では改修時にシャンデリアをLED化



- ・ **改修のタイミングでサステナに配慮した設備を導入**することが望ましい

外部講師

三溪園

学芸員

- ・ 園内の**重要文化財等**を補助金・入園料を資金とした保全を実施
- ・ **森林や鳥類の自然保護**を第3者委員会含めた体制で活動



- ・ 今後国際会議施設としての活用を推進するため、**歴史・自然保護をよりアピール**すると良い

外部講師

ワークショップ(WS)においては、各施設が体制・制度やカーボンニュートラルを中心に取り組みを共有し、議論

横浜市での「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」WSにて挙げられたサステナへの取り組み

カテゴリ	取り組み概要	主体
A. 体制・制度	- 不定期に事業者アンケート調査を実施、取り組みを把握 - 社内の部署での第3者委員会にて定期的に取り組みを議論 - 同業界の共同他社に対してサステナに関する勉強会を実施	- 横浜市観光協会 - パシフィコ横浜 - 大川印刷
B. カーボン ニュートラル	- 主催者向けに廃棄物の回収量を算出するサービスを有料で提供 - スキャニングロボットの導入によるペーパーレス化 - 印刷時に石油系の溶剤を含んでいないインクを使用 - 市場を介さない電力の調達(PPAの導入) - FSC認証を得た紙、お箸の使用	- パシフィコ横浜 - 大川印刷 - 大川印刷 - 株式会社きじま - 大川印刷、株式会社きじま
C. フード	- 有機栽培の農産物、持続可能な方法で調達された水産物を使用 - 主催者向けに地産の食材を活用した「サステナブル弁当」を販売	- 株式会社きじま - パシフィコ横浜
D.DEI	WSでは言及なし	WSでは言及なし
E. 認証・認定、 評価制度	横浜市のサステナ認証制度である「Y-SDGs」を取得	大川印刷、株式会社きじま等

一部意欲的な事業者を中心に取り組みは推進できているが、横浜市全体としてのストーリー構築・PRに改善の余地がある

横浜市での「サステナ取り組みまとめ資料」・「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」WSにて挙げられた課題

課題の整理軸

横浜における具体例

MICE × サステナにおいて横浜らしいストーリーをもって、各主体が一丸となって推進できていない	各主体が一丸となった推進ができていない	行政(市・CB)がサステナにおいて連携できていない	- 横浜市のMICE担当部署とサステナ担当部署が分かれており、<u>両部門の連携が限定的</u> - CBとして、市のMICE担当部署と連携しているものの、サステナ観点での連携は限定的
		行政(市・CB)と市内事業者の連携ができていない	- 賛助会員とのコネクションはあり、不定期にアンケート調査を実施し、断片的にサステナの取り組みについて聞いている <u>ただし、上記含め、一部サステナ意識の高い事業者との連携に留まる</u>
		市内事業者間の連携ができていない	担当者間の個人ネットワークを通じた連携は一部あるものの、サステナ取り組みがまとまった資料や取り組みを共有する場がないため、他事業者の取り組み状況を把握できていない
	横浜らしいストーリーが構築できていない	【行政・CB】誘致につなげることも見据えたストーリー構築・プロモーションができていない	<u>横浜らしさやMICEターゲットのニーズを踏まえたサステナの取り組みの優先度付けや効果的に伝えるストーリー設計、プロモーションができていない</u> - 上記を検討する上で前提となる事業者の取り組みを包括的に把握するための場・システムがない
		【大手事業者】CSRとしてのサステナの取り組みを推進するものの地域性は意識できていない	大手事業者は現状の取り組みベースで独自にサステナの方針策定・推進体制構築を進める(パシフィコ横浜では独自に「サステナビリティ取組方針」を策定)が、<u>ストーリー性をもって伝え方ができているところが少なく、取り組みの一覧整理に留まる</u>
		【中小事業者】意識の高い一部の事業者のみが取り組みを推進している	<u>費用対効果が最優先事項となり、サステナに取り組む重要性を強く認識していない</u> - 一部事業者(株式会社きじま等)は先進的に取り組んでいるが、それを模倣する<u>中小事業者が少ない</u>

MICE、サステナ双方の今後の目標を踏まえ、横浜独自のストーリー性を持たせ、差別化を図るべきと認識

横浜市での「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」WSにて挙げられた今後の目指すべき姿

MICE関連の目指すべき姿

- 市による「横浜市観光・MICE戦略」に沿った目標の設定を行う
 - 観光消費額増加を念頭に、大型・医学系の誘致件数強化
 - 市・観光協会・その他事業者との連携体制の強化



サステナ関連の目指すべき姿

- 横浜市による環境関連の計画等を基に以下の重点領域でサステナを推進する
 - 脱炭素を中心とし、生物多様性、スマートシティといった分野でのサステナの取り組みを強化

MICE × サステナ関連の目指すべき姿

- 横浜ならではのストーリー性を持たせる形で、大都市との差別化(サステナへの取り組みは誘致の武器の一つとする)
 - 利便性、自然の多さ、美食、文化等が横浜の特徴であるため、「Walkableな街」、「ウェルネス(体・心の健康・豊かさ)」等をキーワードに、サステナを絡めた形での街のプロモーションをするストーリー構築を行いたい
 - 上記を横浜市として高いレベルとして担保するために、市・観光協会がガイドラインを提供、サステナビリティの観点も調達基準に落とし込む等、市内事業者のサステナビリティの取り組みの強化・底上げを図りたい

岡山市でも、サステナ関連講義の受講、取り組みまとめ資料・5か年計画作成に向け議論等を実施

第1回都市別研修の概要(岡山市)

実施概要	
日時	11/6 12:30-17:25 11/7 9:00-13:50
参加者	岡山市、おかやま観光コンベンション協会、各施設
アジェンダ	【11/6】 1. サステナビリティに関する潮流講義 - MICE × サステナビリティに関する導入講義、国内先進事例の紹介 2. 施設視察 - ANAクラウンプラザホテル岡山、ホテルグランヴィア岡山、能楽堂ホールtenjin9で実施 【11/7】 3. 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」作成講義・ワークショップ - おかやま観光コンベンション協会、ホテルグランヴィア岡山、RSK放送局等市内事業者が参加 4. 「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」策定講義・ワークショップ - 同上 5. 施設視察 - 岡山コンベンションセンターで実施



Day1
講義の様子



Day2
講義・ワークショップ
の様子



ANAクラウンプラザ
岡山 視察の様子



ホテルグランヴィア
岡山 視察の様子



能楽堂ホールtenjin9
視察の様子

現地視察では、MICE施設のサステナを取り組みを踏まえ、今後の運営方法やPRに関するアドバイスを得た

岡山市での施設視察での施設関係者・有識者の主なコメント

：会場

：宿泊施設

：ユニークベニュー

岡山コンベンションセンター

MICE
推進部
部長

- SDGsセンターにて岡山市のサステナの取り組みを発信
- 省エネ対策としてホールでは照明のLED化を推進
- 今後の改修のタイミングでよりサステナ配慮型の設備を導入すると良い



外部講師

ANAクラウンプラザホテル岡山

宴会
セールス
支配人

- 朝食ビュッフェのパンを外部団体と連携した上で再販売・寄付
- ムスリム対応として、宴会時の情報記入や個別対応を実施
- 食品を自社のみで再販売するのは難しいため、外部と連携したことも含めてPRするとよい



外部講師

ホテルグランヴィア岡山

役職

- スイートルームには倉敷のジーンズを活用
- 昨年度より祈祷室を設置し、延べ130人以上が利用
- 地産の素材を部屋に導入していることをさらにアピールすることでプロモーションにつながる



外部講師

能楽堂ホール tenjin9

事業
推進部

- ホールの木材は国内から調達し、ひのきの香りを重要視
- 周辺の観光施設等や地域と連携し、文化的要素を重要視
- コロナ禍後は現地開催を念頭に五感で楽しむことが重要であるため、木材や文化について今後は更に上手くPRしていくべき



外部講師

ワークショップ(WS)においては、各施設がフード関連やDEI関連の取り組みを中心に共有し、議論

岡山市での「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」WSにて挙げられたサステナへの取り組み

カテゴリ	取り組み概要	主体
A. 体制・制度	・ ガストロノミー冊子作成のための部会・ワーキンググループを設置 ・ 岡山市のSDGsの取り組みの発信スペースの設置・イベント開催 ・ 同グループ社とのサステナ取り組みにおける目標・数値の共有	・ 岡山CB ・ 岡山コンベンションセンター ・ ホテルグランヴィア岡山
B. カーボン ニュートラル	・ 照明のLED化、契約電力量の見直し ・ 節水機能のついたシャワー・水道の装置の導入 ・ 主催者向けにCO₂ゼロMICEの商品を提供	・ 岡山コンベンションセンター ・ ホテルグランヴィア岡山 ・ ホテルグランヴィア岡山
C. フード	・ 岡山県産の食材を紹介・マッチングのための冊子作成 ・ 所有する畑から食材を収穫、レストランで提供 ・ 「TABETE」アプリとの連携による廃棄物削減	・ 岡山CB ・ ホテルグランヴィア岡山 ・ ホテルグランヴィア岡山
D. DEI	・ ベジ・ハラル対応の他、適宜リクエストがあった際に個別対応 ・ 女性管理職の増加、留学生・障がい者の採用 ・ バリアフリースイレの設置、スロープの無料貸し出し	・ ホテルグランヴィア岡山 ・ ホテルグランヴィア岡山 ・ 岡山コンベンションセンター
E. 認証・認定、 評価制度	・ WSでは言及なし	・ WSでは言及なし

岡山では、CBと事業者との連携の場が無いことや、市全体のサステナへの機運が低い点が課題として挙げられる

岡山市での「サステナ取り組みまとめ資料」・「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」WSにて挙げられた課題

課題の整理軸		岡山における具体例
MICE × サステナにおいて岡山らしいストーリーをもって、各主体が一丸となって推進できていない	各主体が一丸となった推進ができていない	- MICE推進課とサステナ推進課が連携していないため、横断した取り組み・計画策定が限定的 <u>市・CB・岡山コンベンションセンター間の誘致に関する戦略会議はあるが、サステナについて議論の機会が乏しい</u>
	行政(市・CB)と市内事業者の連携ができていない	<u>おかやま観光コンベンション協会は賛助会員とのコネクションはあるが、定期的な会議体等の連携の場がない</u>
	市内事業者間の連携ができていない	個人的な繋がりでの特定業種内での情報共有の場があるが、定期的かつ公式な定例会等がない
	岡山らしいストーリーが構築できていない	<u>岡山らしさやMICEターゲットのニーズを踏まえたサステナの取り組みの優先度付けや効果的に伝えるストーリー設計ができていない</u> - 上記を検討する上で前提となる事業者の取り組みを包括的に把握するための場・システムがない
	【大手事業者】CSRとしてのサステナの取り組み・グローバルの目標をもとにした取り組みが大半	大手事業者では、グループ本部で決定された取り組み・目標に従ってサステナへの取り組みを実施している(例:ANAクラウンプラザ岡山はIHGグループとしての方針に従った取り組みを行うのみ)
	【中小事業者】サステナの必要性を認識しておらず、何をやればよいかわからない	<u>サステナへ取り組む必要性を認識していない</u> - サステナ取り組みにおいて社内で専門の担当人材がいないため、個人の裁量に任せている

岡山ならではの特徴を踏まえたストーリー性を構築することで差別化・誘致力強化を図ることが重要だと議論

岡山市での「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」WSにて挙げられた今後の目指すべき姿

MICE関連の目指すべき姿

- 市による次年度MICE中期経営計画(策定中)に沿った目標の設定を行う
 - M・I領域への注力
 - 国際会議開催件数、コンベンション総人数の増加
 - 工学系の国内・国際会議の誘致力強化



サステナ関連の目指すべき姿

- 現在公表中の「岡山市環境計画」で以下に注力することを明記(次年度版を策定中)
 - 市民協同による環境づくりと快適な都市環境の実現
 - 豊かな自然環境の保全と共生の実現
 - 賢い選択による低炭素と地球にやさしい活動の実現
 - 安全な生活環境と循環型社会が実現

MICE × サステナ関連の目指すべき姿

- 岡山ならではのストーリー性を持たせる形で他都市との差別化・誘致力の強化(地方都市のロールモデルとして誘致につなげたい)
 - DEI・フード関連は引き続き実施したい
 - 歴史・文化がコンパクトにまとまった街であるため、サステナのストーリーを構築する上で、上記との関連付けを行いたい
 - 行政として整理したストーリーに民間事業者も巻き込み、一丸となってMICE誘致力を強化する(「岡山市環境計画」、MICE中期経営計画(策定中))

現在策定中の「岡山市環境計画」、MICE中期経営計画にも明文化する想定

参加者からは、サステナに関する知識・潮流の学び、取り組み意欲の向上等に関するコメントが得られた

第1回都市別研修に対するコメント例

Day1:「サステナビリティに関する潮流講義」に対するコメント例



横浜市
自治体

短い時間で国際的な潮流をすることができて素晴らしかった。自分で深く学ぼうと思う



仙台市CB

これから取り組みをしなければならないテーマとして大事であることが分かった



横浜市CB

世界的に色々な制度があることがわかった



岡山市CB

他都市の事例についてもう少し深く知りたかった

ポジティブ

ネガティブ

Day2:「サステナビリティの取り組みまとめ資料」、「5か年計画」策定講義・WSに対するコメント例



仙台市
自治体

サステナビリティについて関係者で話すキッカケのはじまりとして非常に良かった



岡山市CB

様々な視点からのサステナ×MICEの取られ方、アプローチの仕方があることに気付かされた



岡山市事業者

ディスカッション形式で司会がハンドリングしていることがよかった



仙台市
自治体

資料の完成形がイメージできず苦労した

第2回都市別研修は、仙台市では1日目に取り組みまとめ資料・5か年計画に関する議論、2日目にサステナ関連講義を実施

第2回都市別研修の概要(仙台市)

実施概要	
日時	1/21(火) 13:00-17:25 1/22(水) 9:00-14:50
参加者	仙台市、仙台観光国際協会、各施設、外部講師
アジェンダ	【1/21】 1. サステナビリティに関する世界的潮流講義 2. フード関連講義 3. 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」のご共有 4. 「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」のワークショップ 【1/22】 5. 地域内連携関連講義 6. CO₂関連講義 ・ カーボンニュートラル関連講義 ・ CO₂排出量測定モデル講義



講義の様子



講義内 ワークショップの様子

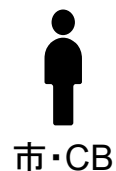


成果物 ワークショップの様子

CO₂、フード、地域連携関連講義では、排出量の現状把握の大切さを学ぶ他、認証の活用方法を検討

CO₂、フード、地域連携関連講義でのコメント(仙台市)

CO₂関連講義



市・CB

- 主催者のみが把握可能な項目もあるので、**関係各所との協力が必要不可欠**であると感じた



市内事業者

- 関心があるお客様に向けアピールするため、**算出結果のモデルケースがあると良い**と感じた



事務局

- まずは市内でモデルを利用し、**市としてデータを蓄積すること**で現状把握すべきである

フード関連講義



市・CB

- ASC・MSC認証に留まらず、**地域特有のマーク**で一目でそれと分かるようなものを用意しても面白い



市内事業者

- 認証取得商品はコストが高いため**助成金を活用しつつ、サステナ**が刺さる層に売り出すのが良いと感じた



外部講師

- 現状、オリンピックや万博等では認証が求められており、**海外の動向を注視して目標設定することが重要**

地域連携関連講義



市・CB

- 夢メッセみやぎの震災からの復興等、**PRすべき内容を連携して把握し、まとめていく**べきだと感じた



市内事業者

- 災害から**地域一体**となつての復興までの**軌跡を伝える**ため、マニュアルを作成し後世に伝えるのが良い



外部講師

- パークMICEは会場と公園が隣接している仙台の特徴のため、**地域住民とMICEの結び付けに繋がる**

取り組みまとめ資料、5か年計画に関して、「防災」を差別化ポイントとして、ストーリーと共に伝えることを検討

「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」、「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」に関する議論内容(仙台市)

資料修正に向けたポイント

資料修正の方向性

MICEの誘致に向け「取り組みまとめ資料」、「5か年計画」の構成・内容をどうすべきか	資料の構成	マーケティングストーリー	・ 防災に関連したマーケティングストーリーを掲載 － 取り組みを実践するだけではMICE開催地を悩む主催者に届かず、主催者に共感を得られる発信ができ、伝わって誘致に結びつく － 仙台は、復興に向けた「絆」の強さをアピールできる他、実際に関連した国際会議を開催しているため、冒頭にストーリーとして掲載
	資料の内容	他都市との差別化	・ 防災に関連した重点領域を計画に掲載 － 「防災」は仙台として他都市との差別化ポイントになるので重点領域に含める － 現在、市として「仙台市地域防災リーダー」の養成に取り組んでいるので、MICE開催時の活用を検討する ・ CBとしての取り組みの追加 － 仙台CBの取り組みが掲載されていないので、「マイ箸づくり」や「和紙の再利用」の取り組みを掲載しても良い ・ 移転する施設の取り組みの掲載 － 載せる場合は移転先の施設として掲載するが、写真は検討する
		写真	・ 適切な写真への貼り替え － 取り組み内容が伝わりやすい写真に貼り替える

横浜市では、1日目にサステナ関連講義の受講、2日目に取り組みまとめ資料・5か年計画に関する議論を実施

第2回都市別研修の概要(横浜市)

実施概要	
日時	1/23(木) 13:00-17:35 1/24(金) 9:00-14:40
参加者	横浜市、横浜市観光協会、各施設、外部講師
アジェンダ	【1/23】 1. サステナビリティに関する世界的潮流講義 2. CO₂関連講義 ・ カーボンニュートラル関連講義 ・ CO₂排出量測定モデル講義 3. フード関連講義 4. 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」のご共有 ・ 外部講師による事例紹介のみ、成果物に関する議論は2日目に実施 【1/24】 5. 地域内連携関連講義 6. 「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」のワークショップ



講義の様子



講義内 ワークショップの様子



成果物 ワークショップの様子

CO₂、フード、地域連携関連講義では、排出量削減に向けた協力や、成果の明確化の重要性を認識

CO₂、フード、地域連携関連講義でのコメント(横浜市)

CO ₂ 関連講義	 市・CB	項目のうち、どこが削減可能なのかが検討し、取り組みを推進することが行政の役割であると感じた	 市内事業者	パシフィコ横浜では、コージェネレーション施設から発電もできるので、排出量削減に貢献可能だと感じた	 事務局	国際会議を円滑に進める目的に立ち返り、何が本当に必要なものなのか取捨選択することが重要である
フード関連講義	 市・CB	海外から遅れて日本にトレンドが来ることを踏まえると、海外での食の要望の現状を把握すべきと考えた	 市内事業者	食に関して自然・環境に負荷をかけていることを認識し、環境への負荷軽減に協力すべきである	 外部講師	地産地消や炭素が貯留されるもの等を活用し、食に関してもカーボンニュートラルを強みに出せる
地域連携関連講義	 市・CB	各ステークホルダーの役割を明確化し、課題感や解決に向けた取り組みを検討すべきと感じた	 市内事業者	国や自治体目線での経済の見方、地域の発展に向けた検討すべき事項を学ぶ機会となった	 外部講師	成果は何かを明らかにすることが重要であり、AI等様々なツールを有効活用して取り組みを推進すべき

取り組みまとめ資料、5か年計画に関して、横浜の取り組みの先進性や規模の大きさを活かした連携を検討

「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」、「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」に関する議論内容(横浜市)

資料修正に向けたポイント

資料修正の方向性

MICEの誘致に向け「取り組みまとめ資料」、「5か年計画」の構成・内容をどうすべきか	資料の構成	マーケティングストーリー	・ 「Walkable」、「Wellness」に関連したマーケティングストーリーを掲載 － 取り組みを実践するだけではMICE開催地を悩む主催者に届かず、主催者に共感を得られる発信ができ、伝わって誘致に結びつく － 横浜としては「Walkable」、「Wellness」を都市の特徴として認識しているので、環境負荷の少ない移動等とセットで伝えられる可能性がある
	資料の内容	他都市との差別化	・ 取り組みの先進性・都市の大きさを活かした連携を計画に含める － 「きじま」を初めてとした取り組みが進んだ企業が多いため、連携することで市内事業者が刺激を受け、取り組みの推進につなげられる － 横浜は人口380万人の大都市であり、市内事業者も多いため、連携することによって地域内に金銭的な流れを循環させることができる ・ 重点領域の見せ方 － プロモーションは全体の領域を包含するような見せ方とする ・ 市内事業者としての取り組みの追加 － 今回研修に参加した「新横浜プリンスホテル」等、更に取り組みを掲載すべき市内事業者を検討し、よりリッチなものにする
		写真	・ 適切な写真への貼り替え － 取り組み内容が伝わりやすい写真に貼り替える

岡山市では、1日目にサステナ関連講義、2日目に取り組みまとめ資料・5か年計画に関する議論を実施

第2回都市別研修の概要(岡山市)

実施概要	
日時	1/16(木) 14:00-17:10 1/17(金) 9:00-15:20
参加者	岡山市、おかやま観光コンベンション協会、各施設、外部講師
アジェンダ	【1/16】 1. サステナビリティに関する世界的潮流講義 2. CO₂関連講義 ・ カーボンニュートラル関連講義 ・ CO₂排出量測定モデル講義 3. フード関連講義 【1/17】 4. 地域内連携関連講義 5. 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」のご共有 6. 「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」のワークショップ



講義の様子



講義内 ワークショップの様子

CO₂、フード、地域連携関連講義では、主催者に刺さるストーリー、取り組み推進に向けた連携の重要性を認識

CO₂、フード、地域連携関連講義でのコメント(岡山市)

CO ₂ 関連講義	 市・CB • 今後は、排出量測定に向け、主催者や市内事業者に積極的に働きかけたい	 市内事業者 • 市全体として、各施設が自分事化して捉えていないので、機運醸成から始める必要がある	 事務局 • 排出量の測定自体に価値がある • 削減に向けた工夫をストーリー性を持って発信すべきである
フード関連講義	 市・CB • 岡山の特産品(雄町米や千屋牛)の認知度向上に向け、まずは市内事業者と意見交換会を設けるべき	 市内事業者 • 邑久町の養殖牡蠣等、地域の魅力的な商品は把握しているが、施設としてどう協力できるか分からない	 外部講師 • 地域で取り組みを進める思いを持った集合体を形成すべきであり、その中で支援をしていくことが重要
地域連携関連講義	 市・CB • 外部から来た方々が岡山市内の伝統文化を体験・発信してくれることがあり、文化継承に繋がっている	 市内事業者 • 国際会議を開催により、地域全体にメリットをもたらすだけでなく、CO₂の発生等負の影響も与えると感じた	 外部講師 • 国際会議開催が地域にもたらすメリットとして、「Civic Pride」の醸成等、非経済的なメリットもある

取り組みまとめ資料、5か年計画に関して、ムスリム対応の表現の仕方、ストーリーの重要性を議論

「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」、「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」に関する議論内容(岡山市)

資料修正に向けたポイント

資料修正の方向性

MICEの誘致に向け「取り組みまとめ資料」、「5か年計画」の構成・内容をどうすべきか	資料の構成	マーケティングストーリー	- 岡山ならではのマーケティングストーリーを掲載(DEI・食品ロス等) - 取り組みを実践するだけではMICE開催地を悩む主催者に届かず、主催者に共感を得られる発信ができ、伝わって誘致に結びつく - なぜ岡山市がDEIに注力しているのか、を上手く伝える必要がある - ガストロノミー関連への注力から、食品ロスへと結びつける
	資料の内容	他都市との差別化	- ムスリム関連の記載はDEIに範囲を拡張 - ムスリム対応は岡山市として力を入れているが、DEIの中の要素であり、「ムスリム」と表記すると尖り過ぎてしまい現実での対応との乖離を感じさせてしまう可能性があるため、DEIと対象を広げる 「フードロス」⇒「食品ロス」と変更することで範囲を拡張 - グローバルでは、フードロスは調達まで、調達後はフードウェイストと呼ばれるので、国外へのアピールも踏まえて全体を捉えた食品ロスとする
		写真	- 適切な写真への貼り替え - 取り組み内容が伝わりやすい写真に貼り替える

参加者からは、新たな観点の学びや、取り組み推進に向け機運が高まったこと等、前向きなコメントが得られた

第2回都市別研修に対するコメント例

CO₂、フード、地域内連携等の 講義に対するコメント例



岡山市CB

(CO₂) 主催者にも岡山市の所管課にも勧めたくなり、**しっかり取り組んでいきたくなった**ことが良かった



仙台市CB

(フード) 内容が具体的過ぎて難しいのではないかと懸念していましたが、**多様な意見が出て面白かった**



仙台市CB

(地域内連携) DMOにROIの考え方や民間資本の活用を取り入れるという**考え方が新鮮で、勉強になった**



横浜市事業者

(フード) 興味深かったが、極端な取り組みが多く、日本国内の一般的なトレンドとの乖離は感じた



岡山市CB

これから進める**計画を活用して形にしていきたい**と思った



岡山市CB

学びが深まるにつれ、**自身の考えが大きく変化**しました



仙台市自治体

防災に関するストーリー作りが仙台らしさの強みであることを**認識、共有**できた



仙台市CB

必須な課題だと思いますが、深くて大きな課題として、たくさん講座時間がないとあまり意味がないです

ポジティブ

ネガティブ

目次

1. 本事業の目的と業務の概要	3
2. 業務実施報告	5
(1) サステナビリティへの取組の意義や効果・取組事例の調査を実施し、国内自治体・企業がMICE分野でのサステナビリティ対応に取り組む機運醸成用ツールの作成	6
 (2) 都市に対するサステナビリティ促進支援	15
ア) 本年度の支援対象都市の選定	
イ) 都市分析(過去の本事業支援都市の振返りも含む)	
ウ) 伴走支援プログラムの構築	
 エ) 伴走支援プログラムの提供	
(i) 各都市にて実施	
 (ii) 集合型プログラム	

成果報告会・セミナーでは、発表やパネルディスカッションの他、各講義の実施により機運醸成を図った

成果報告会・セミナーの概要

実施概要	
日時	2/14(金) 11:00-15:00
参加者	札幌、仙台、宇都宮、千葉、東京、横浜、新潟、山梨、長野、岡山、広島、高松、山口、福岡、熊本、沖縄の市・CB等(オンライン含む)、外部講師
アジェンダ	1. 本事業の位置づけ 2. 本事業の成果物のご共有 ・ 「都市のサステナビリティの取り組みをまとめた資料」、「MICEのサステナビリティに関する5か年計画」の概要説明 ・ 各都市の発表 ・ 各都市とのパネルディスカッション(講師陣からのコメント含む) 3. MICE × サステナビリティに関する講義 ・ MICE × サステナビリティに関するセミナー ・ サステナビリティへの取り組みを国際会議誘致に生かすために ・ 「GSTC MICE スタンダード」のご紹介



各都市の発表の様子



外部講師による講義の様子

高松・熊本では、昨年度事業を通じて市内関係者間の連携が進み、意識向上に向けた取り組みを推進している

高松・熊本からの昨年度事業に関するコメント

昨年度事業での気づき・学び

- 協会内での情報連携の重要性
 - － 昨年度に引き続きGDS-Indexに参加する中でデータ・エビデンスの提出を行った
 - － 上記においては、**前任者のメモや他CBのメンバーとの協力**を基に進めた
- 客観的なサステナレベルの現状把握
 - － 昨年度GDS-Indexに参加する中で、**特にサプライヤーやDMOの分野が弱み**であると把握することができた

高松

熊本

現状の取り組み・今後の方向性

- 市内関係者の取り組み把握
 - － 市の脱炭素課や高松空港等の幅広く話を聞きに行き、**昨年度のフィードバックを踏まえた進捗のヒアリング**を行った
- 市内関係者との連携の促進
 - － CBのみで実施できることは限られているので、**今後はより市内関係者と連携して取り組むことが重要**であると感じている
- 市内関係者とのセミナーの開催
 - － 宿泊施設を集めた集会でサステナがテーマのセミナー開催を求める声があった
 - － 協会主催で「**持続可能なまちづくり**」をテーマに**外部から先生も招いたセミナー**を実施
- 市内関係者との密な連携による現状把握
 - － 前年よりも市内関係者と密な連携を取ることで、**幅広い方から情報提供**をいただくことで現状をより深く把握することができた

また、仙台・横浜・岡山は、本事業によって市内事業者の取り組みの現状把握や、きっかけ作りの場に来れた

仙台・横浜・岡山からの本事業に関するコメント

本事業での気づき・学び

本事業で把握した課題・今後の方向性

仙台

- ・ 市内事業者の取り組みの把握
 - － 都市別研修のため市内事業者にお声がけしたところ想定より多くの方に来ていただけたため、有意義な意見交換の場となった
 - － 市内事業者が既にサステナに関連した取り組みを推進していたことに気づいた

- ・ 市でサステナを扱う部署の不在
 - － 計画等の把握のため話を聞こうとしたが、市に担当部署が無いために難航した
- ・ 市内事業者の機運醸成
 - － 地元の事業者にお声がけしても、資料への掲載に消極的等、機運を高める必要性を感じた

横浜

- ・ 市内事業者の取り組み背景の把握
 - － 都市別研修を通じて、市内事業者がサステナに関する取り組みに至った経緯まで把握できた
- ・ 情報発信に関する先進事例の学び
 - － 現状の取り組みのアピールに向け、欧州等の進んだ情報発信方法を把握できた

- ・ 計画で定めた分野の取り組み推進
 - － サステナの分野が広範にあり、事業が単年で先が見えない中、どの分野で取り組みを推進していくか検討するのに苦労した
 - － 本資料作成によりサステナ推進を進める上での基盤を作ることができた

岡山

- ・ 市内事業者の取り組みの把握
 - － 本事業をきっかけに、MICE誘致のための専門部会でサステナをテーマに事業者の取り組みを聞くことが出来た

- ・ 協会と市内事業者との連携
 - － 協会として、更に幅広い市内事業者の取り組みを把握する必要があると感じた
 - － 市内事業者が取り組みを推進していく上で、密な連携が必要であると感じた

MICE×サステナビリティに関する講義では、サステナの取り組みや誘致に向けたポイントを解説した

MICE×サステナビリティに関する講義での登壇者からのコメント

MICE×サステナビリティに関するセミナー



- MICEにおけるサステナを考える上では、攻め・守りのメリハリをつけるべき
- 伴走支援した**3都市は計画で各都市の強みを活かしている**ため、今後どう活用していくかが重要

MICE×サステナビリティに関するセミナー



- 既に主催者目線で選定時にサステナは重要であり、今後は更に重要となる
- 市の取り組みを推進することに加え、**分かりやすい資料等で主催者にアピールすることも重要**

サステナビリティへの取り組みを国際会議誘致に生かすために



- 誘致に向けては、**効果の可視化**によるリピート誘致、サステナを共通言語とした**ネットワークの活用**、メッセージ性を持った**組織文化の理解浸透**の3点が重要となる

「GSTC MICE スタンド」のご紹介



- **「GSTC MICE スタンド」の導入編**という形で分かりやすく整理されているのは日本独自であり、利用を促進していくべきである

参加者からは、新たな観点の学びや、取り組み推進に向け機運が高まったこと等、前向きなコメントが得られた

成果報告会・セミナーに対するコメント例

本事業の成果物のご共有に対するコメント例



サステナビリティの取り組みを強化していく上で、**同じ方向性で取り組む各都市の話**を聞け勉強になった

札幌市自治体



各都市の特徴があり**様々な角度からサステナビリティのアプローチ**があることを知り参考になった

高松市CB



様式にそって報告書が作成され、**資料は見やすく、わかりやすく整理**されていた点が良かった

沖縄市CB



現地参加ならではのメリットとして**参加者と発表者の双方向のやり取り**の時間がもっと欲しかった

仙台市CB

ポジティブ

ネガティブ

MICE × サステナビリティに関する講義に対するコメント例



取組を進めていく際に参考となる情報を多く得ることができました

札幌市CB



それぞれの専門性のサステナビリティの取り組みや考え方を学べて有意義であった

高松市CB



世界スタンダードの視点においてサステナビリティの考え方、ニーズ、現状が分かり良かった

沖縄市CB



もう少し時間を長く取って、お話をより詳しくお聞きできたり、質問できたりすることができればなお良かった

札幌市自治体

仙台では本事業を通じ、市内事業者とのサステナテーマの議論の場の設定や、今後の施策への反映ができた

本事業の振り返り(仙台市)

本事業開始 前の状況

- MICEにおけるサステナビリティの重要性に関する認識不足
 - CBとしてはMICEとサステナを結び付ける意識はあったが、**市内の事業者としては喫緊の課題と認識していなかった**
- CBから市内事業者への働きかけ不足
 - CBとしてはサステナに関する意識はあるものの、**市内事業者への適切な働きかけ方が分からなかった**

本事業で得られたこと

本事業の改善ポイント

本事業のご感想

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • コンベンション推進委員会でのサステナの検討 <ul style="list-style-type: none"> – コンベンション関係者が年2回集まる会があり、3月に実施する際にサステナテーマの議論も実施する予定 • 今後の市の施策へのサステナの反映 <ul style="list-style-type: none"> – 詳細は今後になるが、SDGsに関連した取り組みの継続に向け、内容を検討中 | <ul style="list-style-type: none"> • 事業中盤での他都市との議論 <ul style="list-style-type: none"> – 成果報告会・セミナー実施時に他都市の状況を把握出来たが、事業の途中でも他都市と議論することで、成果物の参考にすべき • 1コマあたりの時間確保 <ul style="list-style-type: none"> – サステナとしてはテーマが広範な中、情報量が多かったため1つ1つのトピックについてよりじっくり聴講、意見交換すべき |
|---|---|

次年度以降の 事業の期待

- 講義・ワークショップ・施設視察等、本事業と同様の内容の他都市への展開
 - 講義によるインプットや、ワークショップでの他事業者との議論、施設視察などは取り組み状況の把握、方向性の検討に活かせるので実施すべきではないか

横浜では本事業を通じ、5か年計画策定を通じたサステナ取り組みの指針づくりや、ネットワークづくりができた

本事業の振り返り(横浜市)

前 の 状 況 本 事 業 開 始

- MICEにおけるサステナの取り組み方法に関する理解不足
 - サステナに関して市として「地球温暖化対策実行計画」等の計画や、施策はあるが、**YCVBとして市内事業者**にどう働きかけ、どう連携すべきか分からなかった
- 市内事業者間の連携不足
 - パシフィコ横浜等の**事業者が独自に**取り組みを進めていたが、**連携は限定的**だった

本事業で得られたこと

本事業の改善ポイント

本 事 業 の 「 感 想 」

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • サステナ取り組みの方向性の整理 <ul style="list-style-type: none"> – MICEにおけるサステナに関する計画等が無い中、5か年計画策定によりビジョン・ロードマップを整理できた • 事業者間のネットワークづくり <ul style="list-style-type: none"> – 都市別研修で様々な業種の事業者が集まったため、サステナに限らず連携に向けたネットワークづくりができた | <ul style="list-style-type: none"> • 事業者の方々とのより深い議論の実施 <ul style="list-style-type: none"> – 講義パートと比べ事業者の話を聞く時間が短かったため、協議会で実施すべきと認識しつつも、より事業者と議論する時間を確保すべき • 初心者向けの噛み砕いた説明 <ul style="list-style-type: none"> – 都市別研修に部分的に参加される方もいる中、専門用語等、理解が難しい点も見受けられたため、より分かりやすい説明をすべき |
|---|--|

次 年 度 以 降 の 事 業 の 期 待

- 継続的な取り組み推進に向けた伴走支援
 - **今年度策定した計画等に沿った実行面を支援**する事業があると良いのではないかと
- 主催者向け・施設改修に向けた助成金事業の実施
 - 実際開催することでサステナ取り組みを把握していただくことで認知度向上のきっかけになるのではないかと
 - DEI対応等、ハード面の整備・回収にはコストがかかるので、支援があると嬉しい

岡山では本事業を通じ、市内のサステナ取り組みを誘致に活用、取り組みを強化するためのインプットができた

本事業の振り返り(岡山市)

前 の 状 況 本事業開始

- 市全体(市・CB・市内事業者)のサステナに関する意識の低さ
 - サステナへの意識が低く、ムスリム関連の事業を行っているが、サステナに絡めて認識していなかった
- MICE誘致へのサステナの活かし方に関する理解不足
 - 市内の宿泊施設等、サステナビリティに関する取り組みを行っている事業者がいることは認識していたが、**MICEを誘致する際に活用可能であることを理解していなかった**

本事業で得られたこと

- 誘致戦略へのサステナに関する事項記載
 - 本事業を経て、市・CB・コンベンションセンターで**MICE誘致戦略を検討しており、サステナに関する事項も記載**する予定
- 市内事業者の取り組みの把握
 - 本事業をきっかけに、MICE誘致のための**専門部会でサステナをテーマに事業者の取り組みを聞くことが出来た**

本事業の改善ポイント

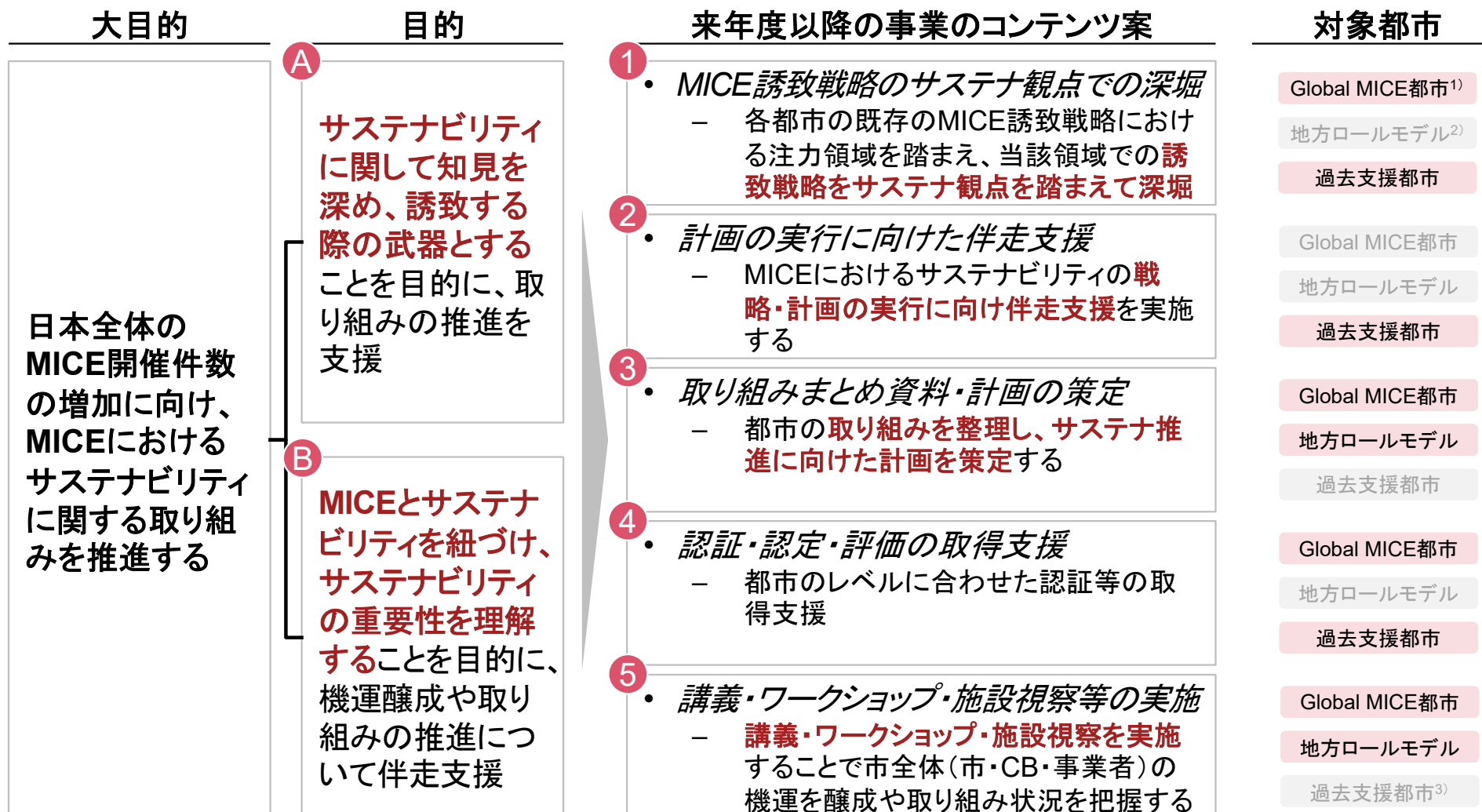
- サステナ担当者への声掛け
 - 参加した市の方はサステナの予備知識が無いなか苦労したため、事前に声掛けし、**サステナ部署等の方の協力を得るべき**
- より余裕を持った事前の情報共有
 - 施設視察等ではより早く資料を展開し、**サステナ部署等担当の方にじっくり確認していただく時間を確保すべき**

次 年 度 以 降 の 期 待 本事業の感想

- 継続的な取り組み推進に向けた伴走支援
 - 今年度策定した計画等に沿った実行面を支援**する事業があると良いのではないかと
- 認証取得に向けた支援
 - 都市としては認証の選択が難しいので、**都市のレベル感に応じて申請段階に踏み込むべきか、取得するとすればどの認証が適切か**助言いただけると良いのではないかと

今後は、機運醸成に向けた伴走支援や、計画実行に向けた伴走支援、認証等取得支援等が候補となるか

来年度以降の事業の方向性案



1) MICE誘致競争を牽引することができる実力ある都市として育成を進めている都市(計10都市、過去支援都市の横浜市・仙台市は除く)

2) これまで観光庁事業に関与(ワークショップに参加する等)した意欲的な中小規模の都市

3) 昨年度「MICEにおけるサステナビリティ評価制度の調査等業務」、今年度「国際会議におけるサステナビリティ推進事業」での支援対象都市(計5都市: 仙台市、横浜市、岡山市、高松市、熊本市)